

中垣内遺跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔（No.23）建替えに伴う発掘調査報告書—

2004年3月

大東市教育委員会

中垣内遺跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔（No.23）建替えに伴う発掘調査報告書—

2004年3月

大東市教育委員会



NR-401 (東より)



石器剥片 (黒曜石)

序 文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くは河内湾、河内湖、また江戸時代の中頃までは深野池という大きな池があり、山と水に縁取られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有していました。

そして、そのような環境のなかで先人達は個性ある歴史、また豊かな文化を育み、その遺産である遺跡も数多く残されています。

この度、報告することになりました中垣内遺跡は昭和 34 年以来、数回にわたって調査が実施されていまして、徐々にではありますが遺跡の実態が明らかにされています。

今回の発掘調査では縄文時代から近世に至る往時の人々の軌跡が確認され、特に縄文土器の比較的まとった出土や弥生時代後期の土器の出土などは、中垣内遺跡の歴史的価値に対して認識をさらに深め、また鍋田川流域における古代の大東市を復元するうえでも、たいへん貴重な成果を得ることができたと思われます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました関西電力株式会社をはじめ、お世話になりました関係機関・関係各位に厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできた貴重な文化財を大切に保存し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成 16 年 3 月

大東市教育委員会
教育長 中 口 聰

例　　言

1. 本書は、大阪府大東市中垣内4丁目における中垣内遺跡発掘調査（NGT93-1）の報告書である。
2. 調査は架空送電線鉄塔（No.23）建替に伴うもので、関西電力株式会社大阪北支店より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。

3. 発掘調査及び整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中達健一が担当した。

調査期間、調査面積等は本文中に記載している。

4. 本調査に係る費用については関西電力株式会社大阪北支店がこれを負担した。記して感謝の意を表します。

5. 発掘調査および報告書作成の過程で、下記の諸氏より有益なご助言、ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。（敬称略、順不同）

大野薫（大阪府教育委員会）、田部剛士（山添村教育委員会）

6. 現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）

〔現地調査〕

大谷聰、甲斐範浩、谷崎光子、塚山彦一朗、萩野登、長谷哲雄、森紀代三、吉野正泰

〔整理作業等〕

岩上直子、大谷聰、甲斐範浩、川崎昌美、小堀直子、下村哉子、谷崎光子、塚山彦一朗、中慶子、萩野登、樋口里美、宮田八重子、村尾奈津子、吉野正泰

7. 本調査における基準点、水準点の設置についてはワールド航測コンサルタント株式会社（現、株式会社ワールド）に委託した。

8. 出土木製品の樹種鑑定および保存処理、また報告書作成に係る一部図面作成、遺物一覧表作成、遺物写真撮影等については財団法人元興寺文化財研究所に委託した。

9. 動物遺体の同定については、大阪市立大学大学院医学研究科、安部みき子氏に依頼し、併せて報文を賜った。

10. 本書の執筆、編集は中達が行った。

11. 本調査に関わる遺物、実測図、写真、カラースライド等は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本文目次

序文

例言

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の方法	6
第4章 調査成果	
第1節 基本層序	7
第2節 第1遺構面	7
第3節 第2遺構面	14
第4節 第3遺構面	16
第5節 第4遺構面	27
第5章 まとめ	33
附 章 中壇内遺跡出土動物遺体について	
大阪市立大学大学院医学研究科 安部みき子	35

挿図目次

第1図 調査地位置図	2
第2図 大東市位置図	3
第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/10000)	5
第4図 調査区区割図	6
第5図 包含層・その他出土遺物（1）	8
第6図 調査区西・北壁断面図 (S=1/80)	9・10
第7図 調査区東・南壁断面図 (S=1/80)	11・12
第8図 包含層・その他出土遺物（2）	13
第9図 第1遺構面全体図 (S=1/200)	13
第10図 第2遺構面全体図 (S=1/200)	14
第11図 SD-201断面図（1）	15
第12図 SD-201断面図（2）	15
第13図 SD-201出土遺物	15
第14図 SD-202断面図（1）	15
第15図 SD-202断面図（2）	15
第16図 SD-202断面図（3）	15
第17図 水田跡出土遺物	15

第18図 第3遺構面全体図 (S=1/200)	16
第19図 SD-301断面図 (1)	17
第20図 SD-301断面図 (2)	17
第21図 SD-302断面図	17
第22図 SD-301出土遺物	17
第23図 NR-301断面図 (1)	18
第24図 NR-301断面図 (2)	18
第25図 NR-301出土遺物	19
第26図 NR-302断面図 (1)	20
第27図 NR-302断面図 (2)	20
第28図 NR-302出土遺物 (1)	21
第29図 NR-302出土遺物 (2)	22
第30図 NR-302出土遺物 (3)	23
第31図 NR-302出土遺物 (4)	24
第32図 NR-302出土遺物 (5)	25
第33図 NR-302出土遺物 (6)	26
第34図 NR-302出土遺物 (7)	26
第35図 第4遺構面全体図 (S=1/200)	27
第36図 NR-401断面図 (1)	28
第37図 NR-401断面図 (2)	28
第38図 NR-401出土遺物 (1)	29
第39図 NR-401出土遺物 (2)	30
第40図 NR-401出土遺物 (3)	31
第41図 NR-401出土遺物 (4)	32

表 目 次

第1表 出土動物遺体一覧表	35
第2表 出土遺物一覧表	36～44

写真図版目次

巻頭カラー図版

1. NR-401 (東より)

2. 石器剝片 (黒曜石)

図版1 遺構（1）

1. 第1遺構面全景（南より）

2. 第2遺構面全景（西より）

図版2 遺構（2）

1. 第2遺構面南半部（北東より）

2. 第2遺構面 水田跡（東より）

図版3 遺構（3）

1. 第3遺構面全景（南より）

2. NR-301遺物出土状況（C-1）

3. NR-302遺物出土状況①（C-3）

4. NR-302遺物出土状況②（B-2）

5. NR-302遺物出土状況③（A-1）

図版4 遺構（4）

1. NR-401（北より）

2. NR-401断面（東より）

3. NR-401遺物出土状況①（土器-1）

4. NR-401遺物出土状況②（土器-2）

5. NR-401遺物出土状況③（土器-3）

図版5 出土遺物（1）

図版6 出土遺物（2）

図版7 出土遺物（3）

図版8 出土遺物（4）

図版9 出土遺物（5）

図版10 出土遺物（6）

図版11 出土遺物（7）

図版12 出土遺物（8）

図版13 出土遺物（9）

図版14 出土遺物（10）

図版15 出土遺物（11）

図版16 出土遺物（12）

図版17 出土遺物（13）

図版18 出土遺物（14）

図版19 出土遺物（15）

図版20 出土遺物（16）

第1章 調査に至る経緯

中垣内遺跡は昭和34年に関西電力株式会社東大阪変電所建設の際に発見された遺跡である。それに伴う緊急調査が一部実施されており、限られた条件下の調査であったにもかかわらず堅穴住居跡などを検出し、また弥生土器など大量の遺物が出土したことから、当時においては弥生時代の集落遺跡として多大な評価を得た遺跡であった。

その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかつたが、昭和62年の大阪産業大学の校舎建設に伴う調査の実施を端緒に、現在に至るまで合計11次にわたる調査が実施されている。特に平成4年に実施した架空送電線鉄塔建替に伴う調査では弥生時代中期の集落跡が確認されるなどの新たな知見を得、いっそう弥生時代の拠点的集落として再認識されるに至っている。遺跡としては集落を中心とした縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられているものの、大東市域では現在においても弥生時代を代表する遺跡となっている。

今回の調査は関西電力株式会社大阪北支店により架空送電線鉄塔の増強工事の事業計画がなされたことによる。この事業計画については先にも触れた平成4年に実施した架空送電線鉄塔建替に伴う調査と一連をなすものであつて、その事業計画の概要については当報告書において詳述している⁽¹⁾のでここで省略する。

その事業計画の中において今回対象とされたのは東大阪新生駒線No.23号と呼称される鉄塔である。

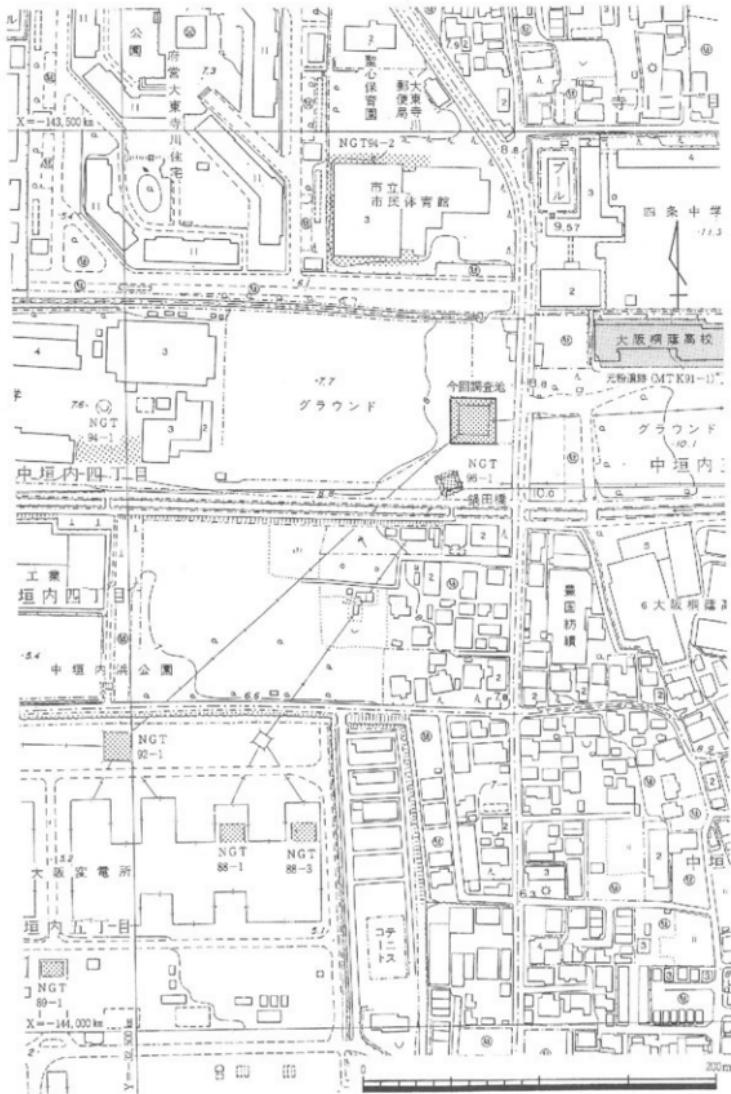
文化財保護法第57条の2に基づく届出は平成3年11月1日付で提出され、以下、事務的手続きを経て平成3年12月19日に本市教育委員会が範囲確認調査を実施した。その結果、遺物が多量に出土する包含層を確認するなど遺跡の広がりが確認されたことから、遺跡の保存に関してさらなる協議を重ねたが、事業内容の特殊性もあり計画変更は困難であることから発掘調査を実施することで合意した。

その後、平成5年1月5日付で埋蔵文化財発掘調査に係る協力依頼書が本市教育委員会宛に出されたことから、本市教育委員会が発掘調査を実施することで調査に関する具体的な項目についてさらに協議がなされた。結果、平成5年2月12日付で「埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」が交わされ、本調査を実施する運びとなつた。

調査は鉄塔建設部分676m²を対象に、平成5年2月16日から開始し、同年4月19日に終了した。

註

(1)『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第20集 大東市教育委員会 2004



第1図 調査地位置図

第2章 遺跡の位置と環境

中垣内遺跡は大阪府大東市中垣内一帯にかけて所在し、南北約850m、東西約1kmの範囲を持つと推定される遺跡である。これまで数次にわたって調査が行われており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生時代の集落跡としては有名である。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地とその西方に広がる沖積地にかけて立地している。

以下、周辺の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

(旧石器時代)

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年における調査のため、出土状況など詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

(縄文時代)

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集されている他、土器では包含層等からの出土ではあるが主に扇状地及び周辺の遺跡から早期末～前期初頭の可能性のある土器片から晩期に至るまでほぼ全時期を通して見受けられる。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な遺物も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分あると考えられる。

(弥生時代)

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の堅穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

(古墳時代)

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地勢的環境からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鎌など多量の鉄製武器、武具類が出土していることか



第2図 大東市位置図

ら当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

（古代）

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書きされた土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径1m程の木を倒り貯いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

（中世）

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その文城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチョの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

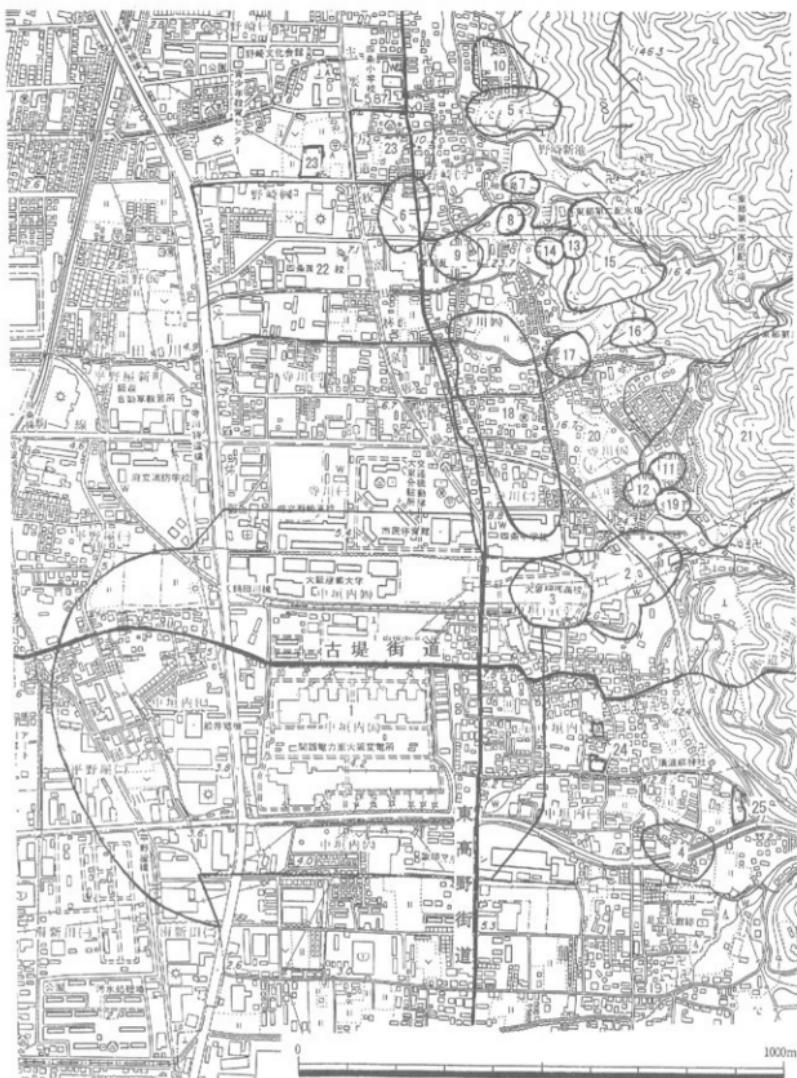
（近世）

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新門池とは別の池と推定される遺構が検出されており、備前鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺擂鉢、石臼などの陶磁器類がまとまって出土している。

（引用・参考文献）

- 大阪府史編纂専門委員会 1991年『大阪府史』別巻 大阪府
大東市教育委員会 1973年『大東市史』
大東市教育委員会 1987年『寺川・北条跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集
大東市教育委員会 1989年『大坂(埋蔵文化財発掘調査報告)』大東市埋蔵文化財調査報告第3集
大東市教育委員会 1990年『城ヶ谷道路発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集
大東市教育委員会 1997年『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
大東市教育委員会 1997年『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集
大東市教育委員会 1998年『モノノ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集
大東市教育委員会 1999年『跡跡跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集
大東市教育委員会 2000年『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集
大東市教育委員会 2004年『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第20集
大東市教育委員会 2002年『平野屋新田会所跡と建物』大東市埋蔵文化財調査報告書
大東市北新町遺跡調査会 1986年『北新町遺跡第1次発掘調査報告書』
大東市北新町遺跡調査会 1991年『北新町遺跡第2次発掘調査報告書』
大東市北新町遺跡調査会 1997年『北新町遺跡第3次発掘調査報告書』
大阪府教育委員会 1991・1994年『空山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯
中達健一 1995年「大東市・北条西遺跡(93・1次調査)」『まんだ』第五十六号
黒田淳 1988年「大東市“谷谷古墳群の調査”」『まんだ』第三十五号



- | | | | | | |
|----------|-------------|-----------|----------|-------------|---------|
| 1 中畠内道路 | 2 鶴田川遺跡 | 3 元和遺跡 | 4 若宮遺跡 | 5 福蓮寺古墳 | 6 メノコ遺跡 |
| 7 峰加内遺跡 | 8 市水道寺配水場古墳 | 9 瓦堂遺跡 | 10 福蓮寺古墳 | 11 城の轍上の段古墳 | |
| 12 城の轍古墳 | 13 宝山上遺跡 | 14 宝山下古墳 | 15 宝山古墳群 | 16 六地藏古墳 | |
| 17 十林古墳群 | 18 寺川古墳群 | 19 大谷神社古墳 | 20 寺川遺跡 | 21 大谷古墳群 | |
| 22 寺川浜遺跡 | 23 野瀬桑里道路 | 24 中畠内東道路 | 25 若宮東遺跡 | | |

第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/10000)

第3章 調査の方法

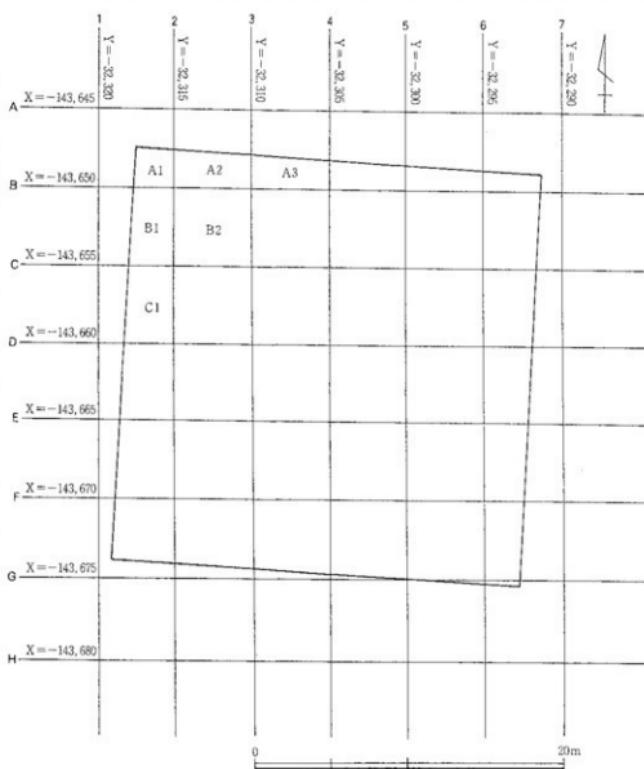
調査を実施するにあたり、まず調査区の区割り設定を行った。まず調査地付近において任意の地点を決め、それを起点として国土座標第VI系による座標を基準として調査計画地全体を囲むように東西南北それぞれ5mごとに座標軸を順次配することで調査区内に5m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点として算用数字を順次付し、また東西座標軸については北端を起点としてアルファベットを順次付することで各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている(第4図)。また、水準についてはT.P.(東京湾平均海面値)を使用している。

遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこの基準に基づいている。

掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構番号について
では遺構検出面ご
とに新たに付与し
ており、遺構面を
示す数字は遺構番
号の頭に冠してい
る。

写真撮影につ
ては、 6×7 の中
型カメラによるモ
ノクロ撮影、35mm
小型カメラによる
モノクロ撮影、カ
ラー撮影それぞれ
を行い、またスライ
ドの作成も行って
いる。



第4図 調査区区割図

第4章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査では4面の遺構面を層位的に確認した。基本的な層序については以下のとおりである。

第I層 現代の盛土。層厚は0.8~1.0mを測る。

第II層 旧耕土。層厚は約0.15mを測る。

第III層 灰緑色砂質土が主体をなす。層厚0.1~0.2mを測る。第1遺構面のベース層になる。

第IV層 暗茶褐色混灰色シルト～褐色混灰色土が主体をなす。層厚約0.2mを測る。

第V層 暗灰青色砂が主体をなす。層厚約0.1mを測る。調査区南半部において水田址の上部に堆積するもので、洪水砂と考えられる。

第VI層 暗茶褐色粘質土が主体をなす。層厚0.1~0.15mを測る。調査区南部で検出した水田址の土壤であり、第2遺構面のベース層になる。

第VII層 砂礫混黒色粘質土が主体をなす。層厚0.2~0.3mを測る。第3遺構面のベース層になる。

第VIII層 暗灰緑色粘質土が主体をなす。層厚は確認し得なかった。第4遺構面のベース層になる。

第2節 第1遺構面

第III層をベース面として、溝5条を検出した。標高はT.P.+6.4~6.8mを測る。

1. 溝

SD-101

調査区東側において検出した。ほぼ南北に走り、規模は幅約0.6m、深さ約0.2mを測る。遺物は陶磁器、須恵器、土師器などが出土している。

SD-102

調査区北側において検出した。ほぼ東西に走り、SD-101に繋がる。規模は幅約0.7m、深さ約0.08mを測る。遺物は陶器、須恵器、土師器などが出土している。

SD-103

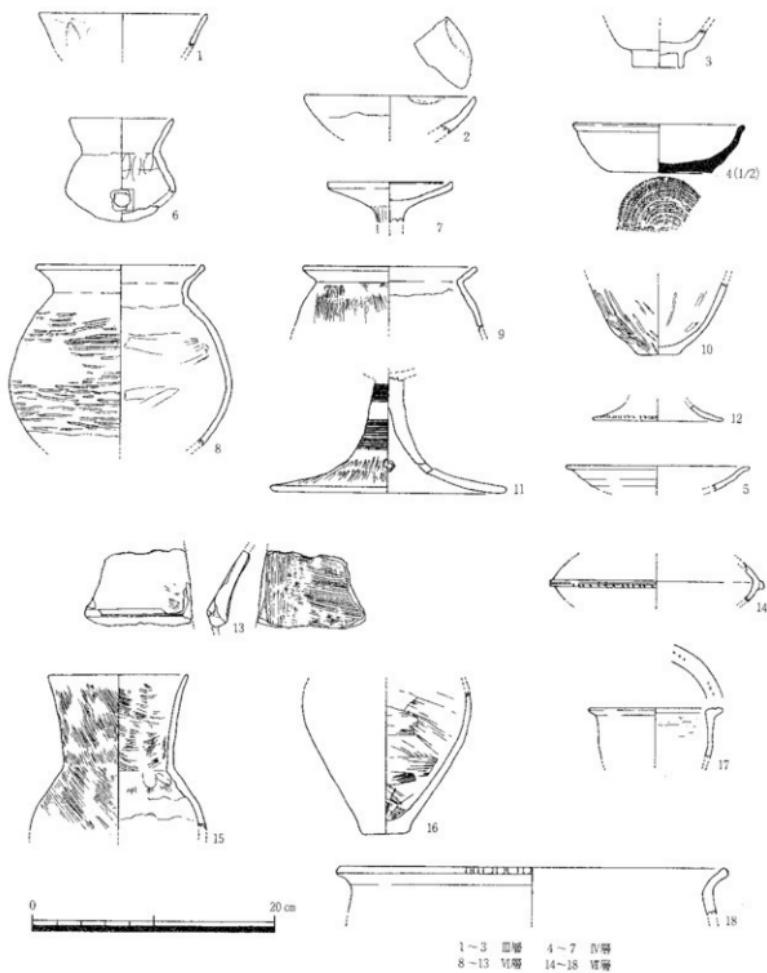
調査区中央において検出した。ほぼ南北に走り、規模は幅約0.6m、深さ約0.08mを測る。遺物は陶器、須恵器、土師器などが出土している。

SD-104

調査区西側のほぼ中央において検出した。ほぼ東西に走り、SD-103、105にそれぞれ繋がる。規模は幅約0.7m、深さ約0.17mを測る。遺物は陶磁器、土師器などが出土している。

SD-105

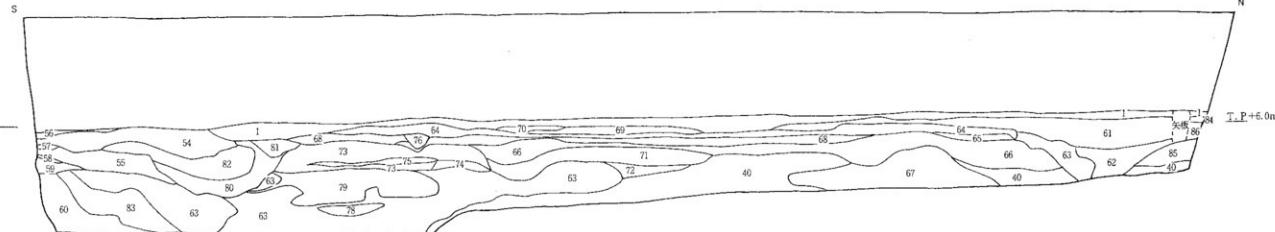
調査区西側において検出した。ほぼ南北に走り、幅約0.7~1.0m、深さ約0.25mを測る。遺物は陶磁器、須恵器、土師器などが出土している。



第5図 包含層・その他出土遺物（1）

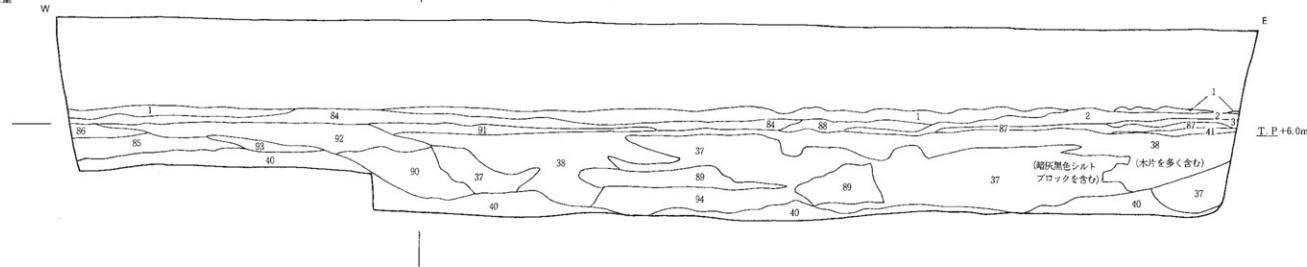
西壁

X = -143,663



北壁

Y = -32,300



西壁・北壁断面

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|----------------------------|
| 1 底緑色砂質土 | 63 灰白色粗砂 | 79 増灰綠色シルト |
| 2 暗褐色混灰色砂質土 | 64 視灰色シルト | 80 増灰綠色シルト混灰白色粗砂 |
| 3 淡褐色土 | 65 雜混暗灰褐色土 | 81 増灰黑色シルト |
| 37 黄灰色粗砂 (10 cm内外の石を含む) | 66 麥混暗灰褐色土 | 82 増灰色粗砂 (強くしまっている) |
| 38 雜灰黑色粘質シルト | 67 灰白色粗砂 (5 cm 内外の石を含む) | 83 増灰色シルトと灰白色粗砂の互層 |
| 40 增綠灰色シルト | 68 麥混暗茶褐色土 | 84 黄褐色混綠黄色土 |
| 41 底色混暗褐色粘質土 (水田跡) | 69 灰白色粗砂混茶褐色土 | 85 麥混暗灰黑色土 |
| 54 黄灰色粗砂 (強くしまっている) | 70 混灰黄色シルト混茶褐色土 | 86 增茶褐色粘質土 (練混じり) |
| 55 增灰青色粘質土 | 71 增灰綠色シルト | 87 暗灰土 |
| 56 增黄褐色土 | 72 增灰黑褐色粘質土 | 88 麥混暗褐色粘質土 |
| 57 部茶褐色粘質土 | 73 灰綠色シルト | 89 增綠灰色シルト |
| 58 麥混黑色粘質土 | 74 增灰色粘質シルト | 90 增灰黑色粘土と黄灰色砂の混合層 |
| 59 麥混黑色粘質土 | 75 麥混暗褐色粘質シルト | 91 増褐色混淡綠灰色砂質土 (東の方は褐色が強い) |
| 60 增灰綠色粘質土 | 76 黄灰色粗砂 | 92 灰色粗砂 (非常に強くしまっている) |
| 61 灰白色粗砂 (強くしまっている) | 77 增白褐色砂 | 93 綠灰色シルト |
| 62 增灰綠色粘質シルト | 78 增灰青色粘質土 | 94 增灰黑色粘質土ブロック |

第6図 調査区西・北壁断面図 (S=1/80)

東壁

南壁

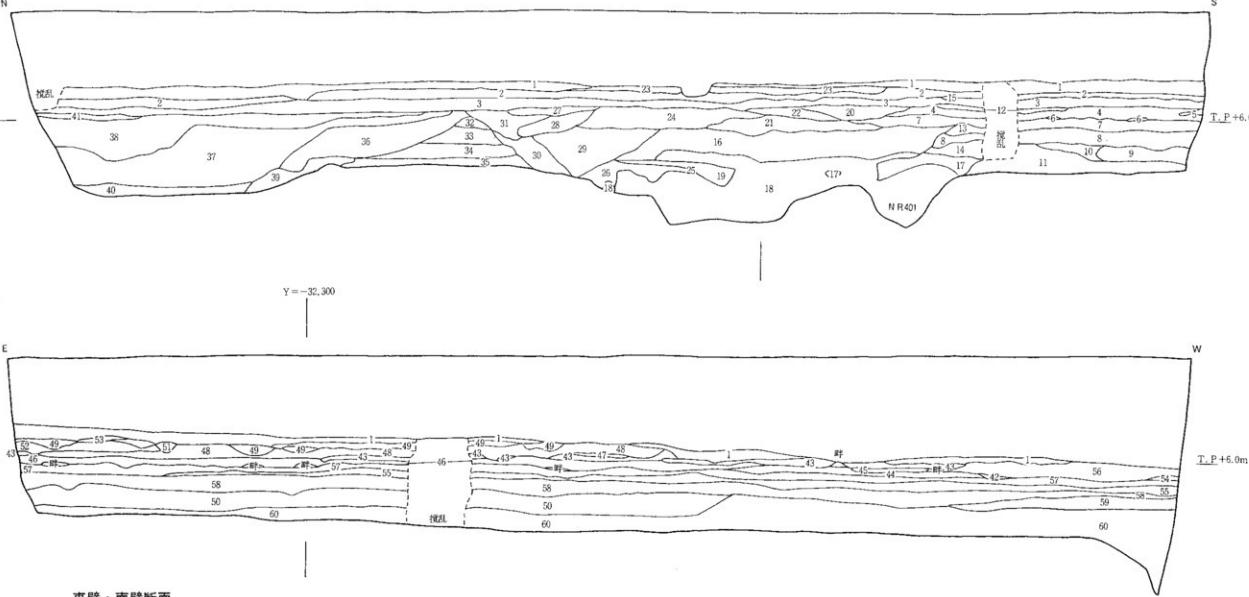
X = -143.663

Y = -32.300

S

W

T.P + 6.0m



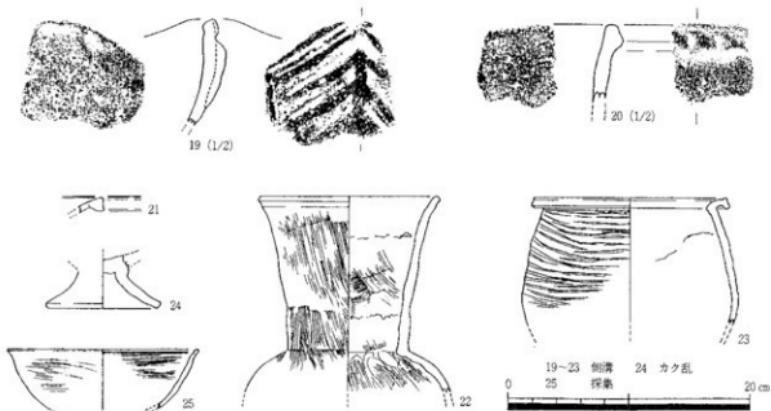
東壁・南壁断面

- 1 灰褐色砂質土
- 2 楔色混灰色砂質土
- 3 淡褐灰色土
- 4 灰白色粗砂混灰色砂質土
- 5 淡灰黄色シルト
- 6 鮎（あざ）
- 7 暗青灰色粘質土（鉄分等の沈着が見られ、上部では暗褐色を呈する）
- 8 暗混暗黑色土
- 9 灰黄色粗砂
- 10 暗灰色砂質土
- 11 緑灰色粘土
- 12 淡灰黄色シルト
- 13 暗灰色粘質シルト
- 14 暗灰綠色砂質土
- 15 暗色混淡灰黄色シルト
- 16 綠灰色シルト
- 17 灰黑色粘質土（ブロック）
- 18 灰黄色粗砂
- 19 暗綠灰色シルト（灰白色砂を含むブロック）
- 20 黃褐色土

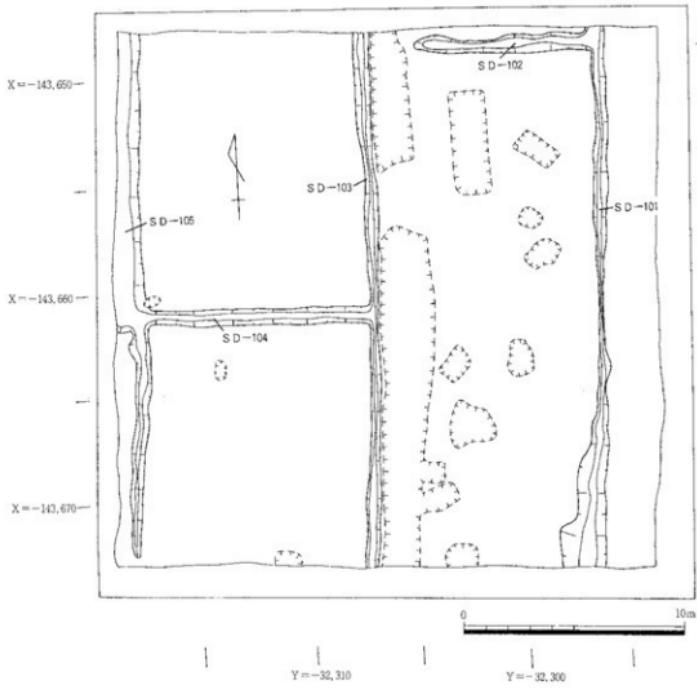
- 21 暗灰色土（鉄分等の沈着が見られる）
- 22 淡灰黃色砂質土
- 23 灰綠色混灰黄色土
- 24 斜褐色粗砂（しまっている）
- 25 綠色シルト
- 26 暗暗綠色シルトと灰白色微砂の互層
- 27 黄灰色粗砂
- 28 灰白色粗砂
- 29 灰白色粗砂ブロック混暗灰黑色砂質土
- 30 灰白色粗砂、黑灰綠色微砂、黒灰色土混灰白粗砂の互層
- 31 灰白色砂、暗灰綠色シルト、暗灰黑色シルトの互層
- 32 暗灰黑色粘質シルト
- 33 暗綠灰色シルト
- 34 暗灰黃色シルト
- 35 綠色シルト
- 36 黄灰色粗砂（木片、暗灰黑色シルトブロックを多量に含む）
- 37 灰白色粗砂（10cm 内外の石を含む）
- 38 暗灰黑色粘質シルト
- 39 灰黃色砂
- 40 暗綠灰色シルト

- 41 灰色混暗褐色粘質土（水田跡）
- 42 黄褐色砂混褐色土
- 43 淡灰黃色シルト
- 44 茶褐色土
- 45 黄灰色粗砂混暗褐色土
- 46 灰色土混暗灰黄色土
- 47 灰變色砂質土
- 48 暗褐色混灰色土
- 49 黄褐色混灰色シルト
- 50 灰黄色粗砂
- 51 灰色土
- 52 暗褐色混灰黑色砂質土
- 53 黄褐色混灰綠色砂質土
- 54 黄灰色粗砂（施くしまっている）
- 55 暗灰青色粘質土
- 56 暗黄褐色土
- 57 暗茶褐色粘質土
- 58 暗混黑色粘質土
- 59 暗灰黑色粘質土
- 60 暗灰綠色粘質土

第7図 調査区東・南壁断面図 (S=1/80)



第8図 包含層・その他出土遺物（2）



第9図 第1遺構面全体図 (S=1/200)

第3節 第2遺構面

第VI層をベース面として、溝、ピット、水田跡を検出した。標高はT. P. +5.8～6.0mを測る。

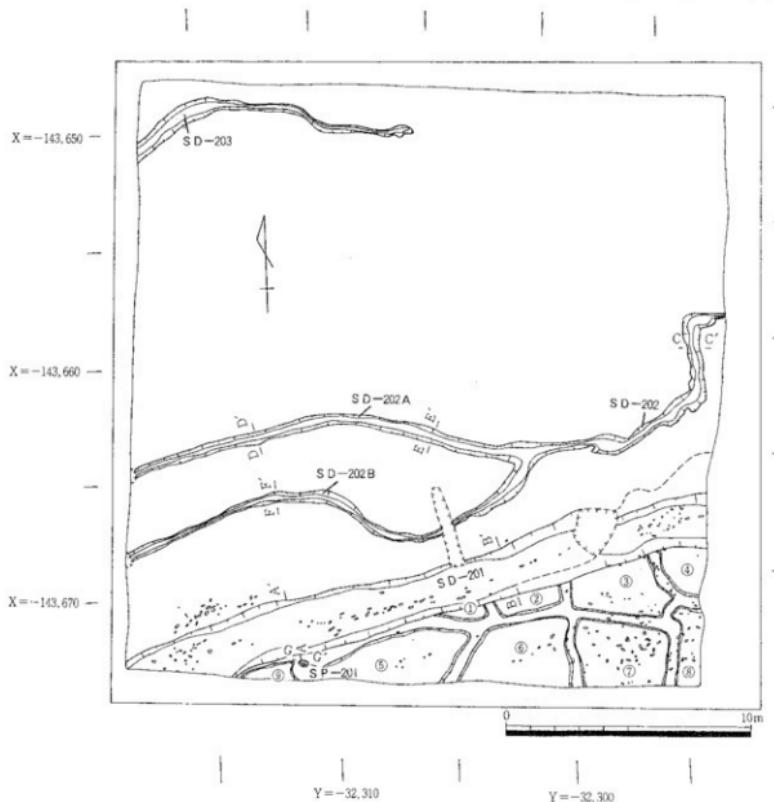
1. 溝

SD-201 (第11・12図)

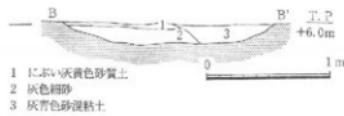
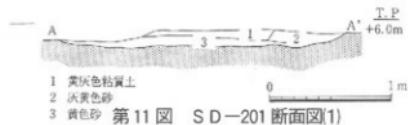
調査区南部において検出した。およそ東西に走るもので、規模は幅約2.0m、深さ約0.2mを測る。埋土は概ね3層で、黄色砂、灰色細砂が主体をなす。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-202 (第14～16図)

調査区のほぼ中央で検出した。蛇行しながらもほぼ東西に走り、途中で分かれれる。規模は幅約0.5～0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は灰白色粗砂である。遺物は弥生後期土器、古式土師器などが出土



第10図 第2遺構面全体図 (S=1/200)



第14図 SD-202断面図(1) 第15図 SD-202断面図(2)



第16図 SD-202断面図(3)

している。

SD-203

調査区北西部で検出した。蛇行しながらもほぼ東西に走り、規模は幅約0.5m、深さ約0.12mを測る。遺物は出土していない。

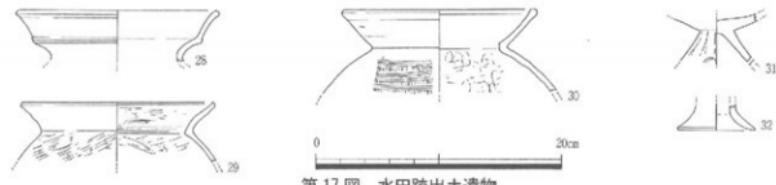
2. ピット

SP-201

調査区南部で検出した。楕円形を呈し、規模は長径約0.45m、短径約0.2m、深さ約0.2mを測る。柱痕が確認できることから柱穴と思われ、埋土は黄灰色粘質土、黄灰色粘土混灰色砂質土である。遺物は古式土師器が出土している。

3. 水田跡

調査区南部で検出した。SD-201に切られており、北側にかけては削平を受けている状況である。全容は明らかでないが、水田面は不定形を呈するものと思われ、小区画の水田跡と考えられる。畦畔の規模は幅約0.5m、高さ約0.1mを測り、上部に洪水砂が覆っていた為、比較的の遺存状況は良好であった。遺物は畦畔から弥生後期土器、古式土師器などが出土しており、また水田土壤においても同じ様相であった。水田の時期としては概ね古墳時代前期と捉えておきたい。



第4節 第3遺構面

基本層序第VII層をベース面として溝、自然河川などを検出した。標高は北東部で約T. P. +6.0m、南西部で約T. P. +5.5mを測る。

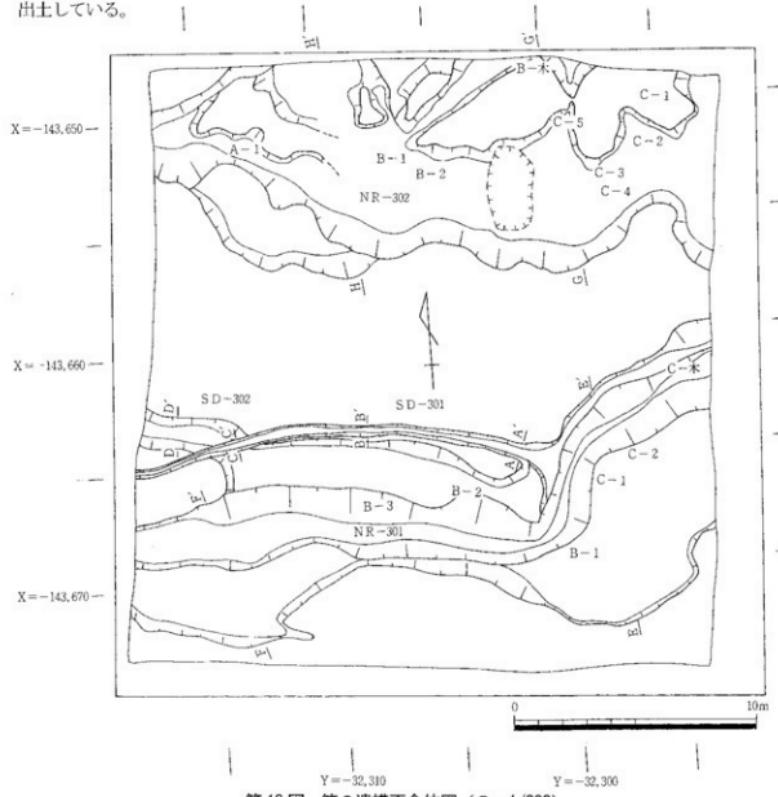
1. 溝

SD-301 (第19・20図)

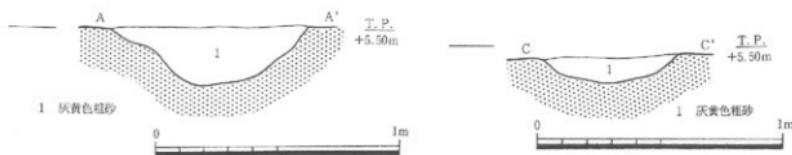
調査区のほぼ中央で検出した、およそ東西に走る溝である。NR-301に繋がる。規模は幅約 0.5m、深さ約 0.25m を測り、埋土は灰黄色粗砂である。遺物は弥生土器が出土している。

SD-302 (第21図)

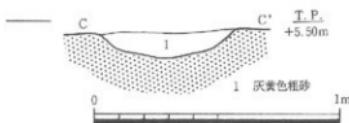
調査区南東部で検出した、およそ東西に走る溝である。NR-301に繋がる。規模は幅約 1.4m、深さ約 0.35m を測り、埋土は2層で暗灰青色砂質土、暗灰青色土である。遺物は古式土師器片が僅かに出土している。



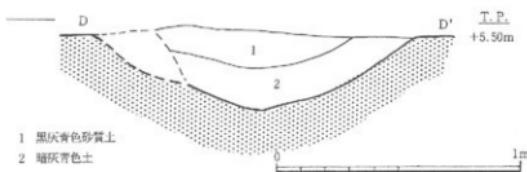
第18図 第3遺構面全体図 ($S=1/200$)



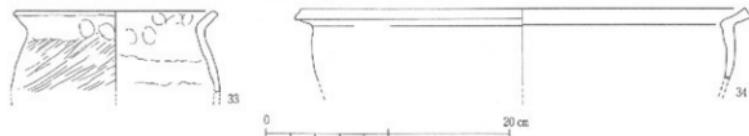
第19図 SD-301断面図(1)



第20図 SD-301断面図(2)



第21図 SD-302断面図



第22図 SD-301出土遺物

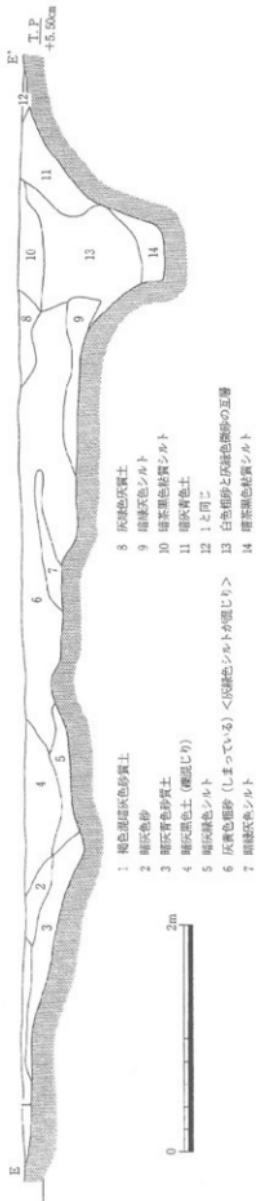
2. 自然河川

NR-301 (第23・24図)

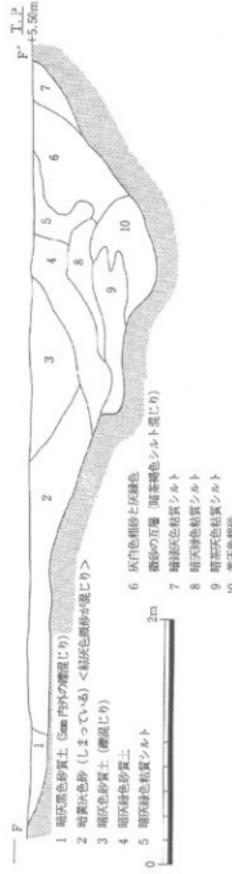
調査区南部で検出した、およそ東西に蛇行しながら走る自然河川である。規模は幅約 2.0m、深さ約 1.25m を測り、埋土は複雑な堆積状況を示しており、灰黄色を中心とした粗砂や灰緑色を中心としたシルトが主体をなす。遺物は比較的まとまって出土しており、弥生後期土器、古式土師器、砥石などがある。

NR-302 (第26・27図)

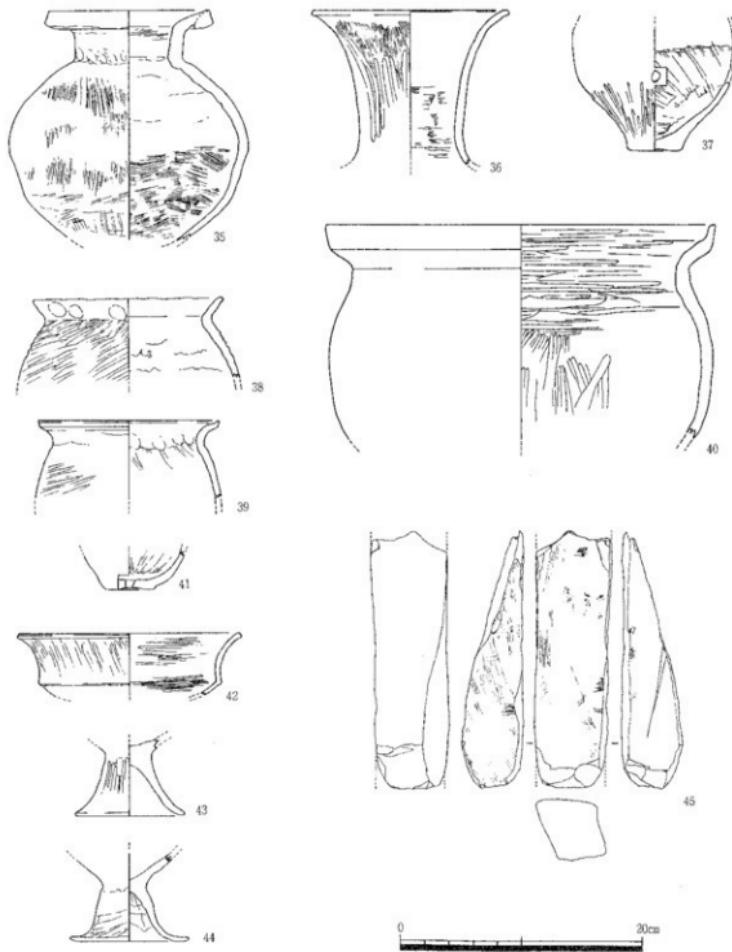
調査区北部で検出した、およそ東西に走る自然河川である。規模は最大幅約 9.0m、深さは最深部で約 1.8m を測る。埋土は複雑な堆積状況を示しており、暗灰色シルト、灰黄色粗砂が主体をなす。遺物は大量に出土しており、縄文土器、弥生前～後期土器、古式土師器、サヌカイ剥片、獸骨片などがある。



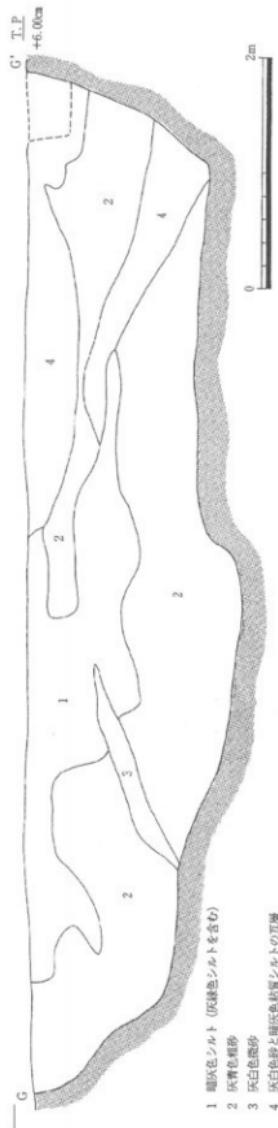
第23図 NR-301断面図(1)



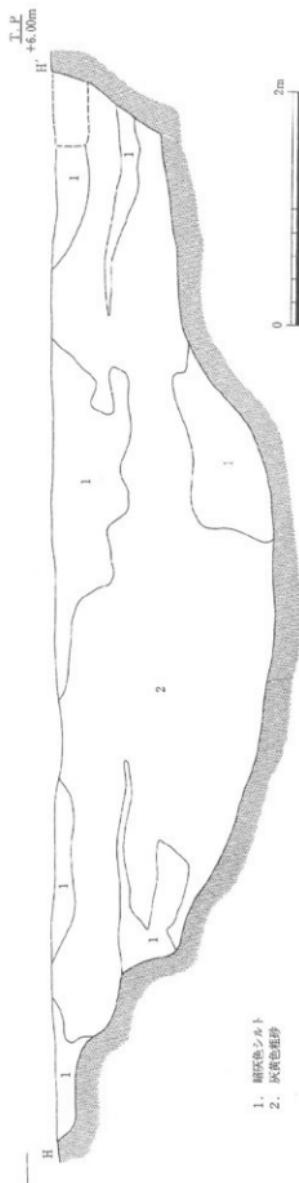
第24図 NR-301断面図(2)



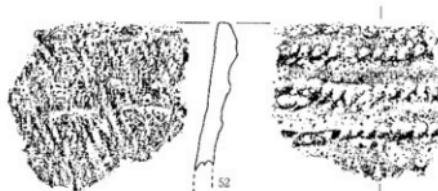
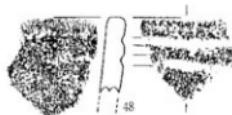
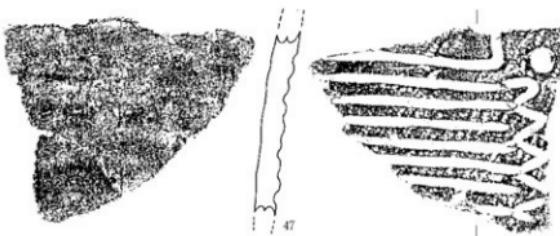
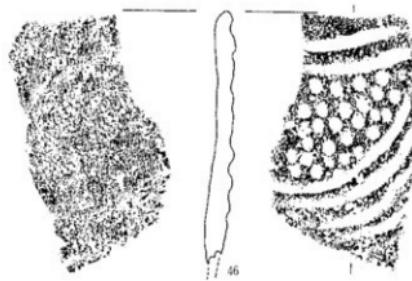
第25図 NR-301出土遺物



第26図 NR-302断面図(1)

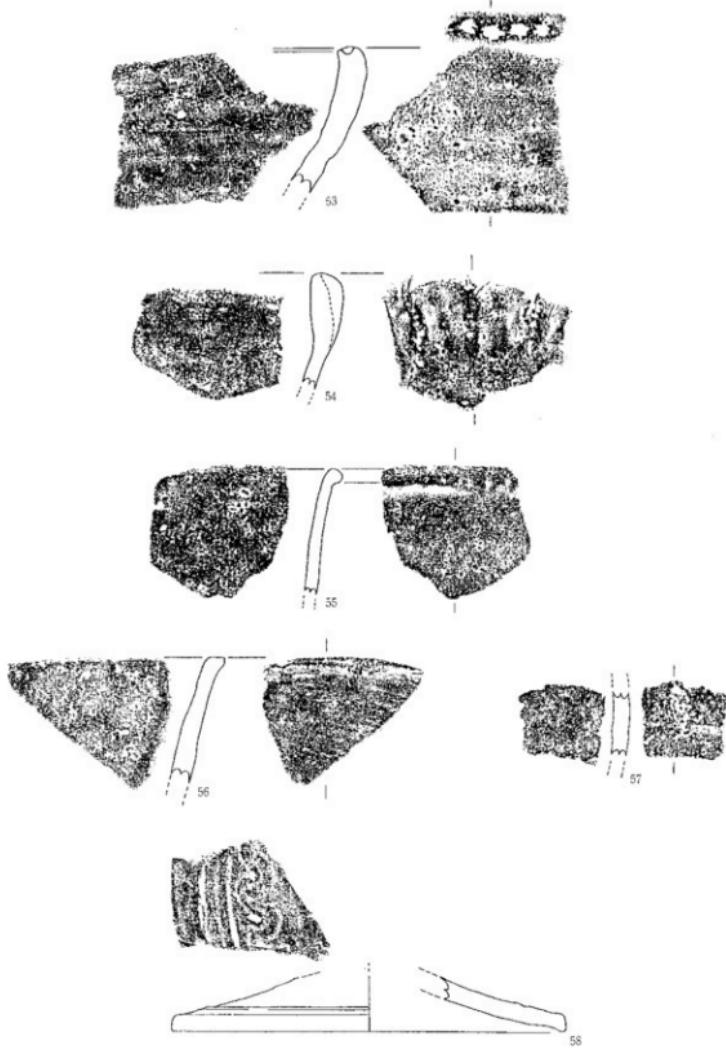


第27図 NR-302断面図(2)

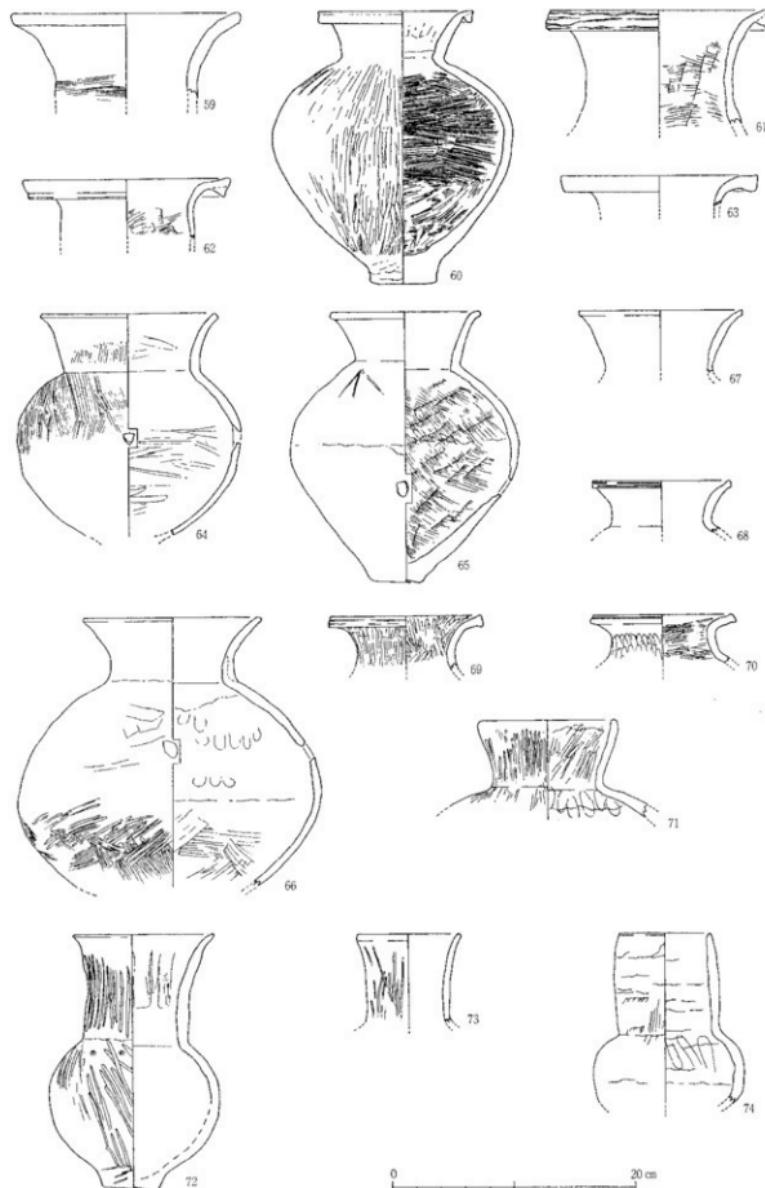


0 10m

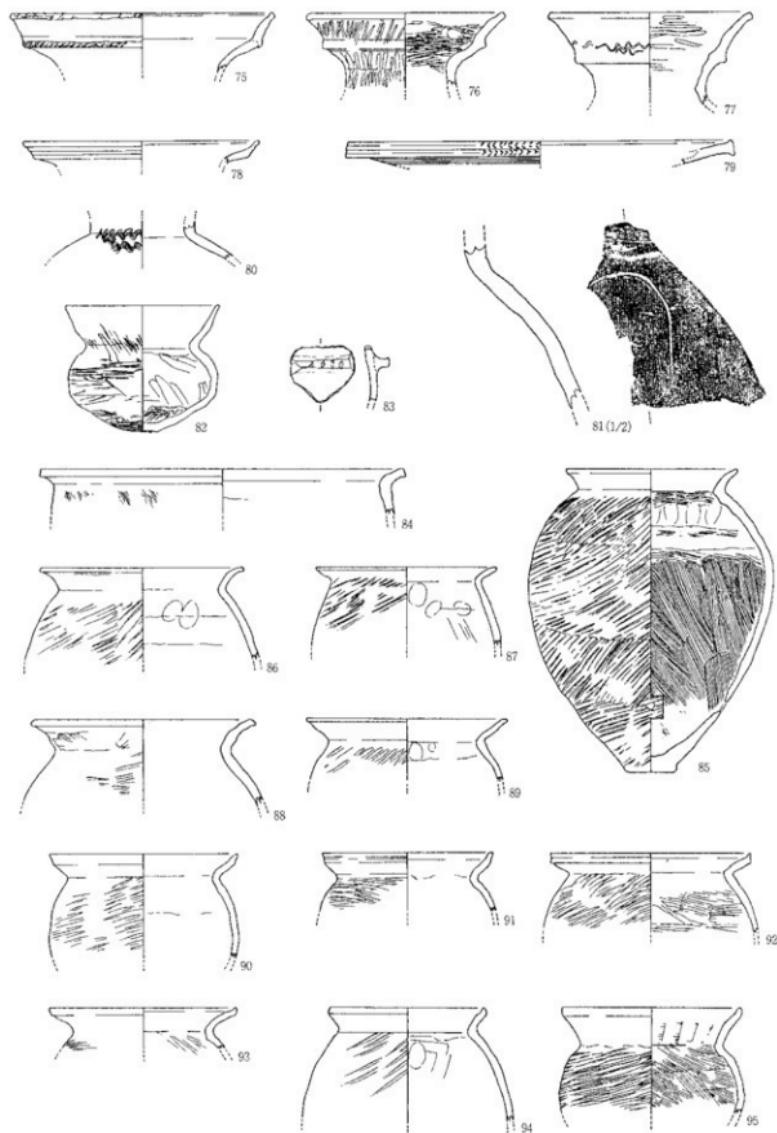
第 28 図 NR-302 出土遺物 (1)



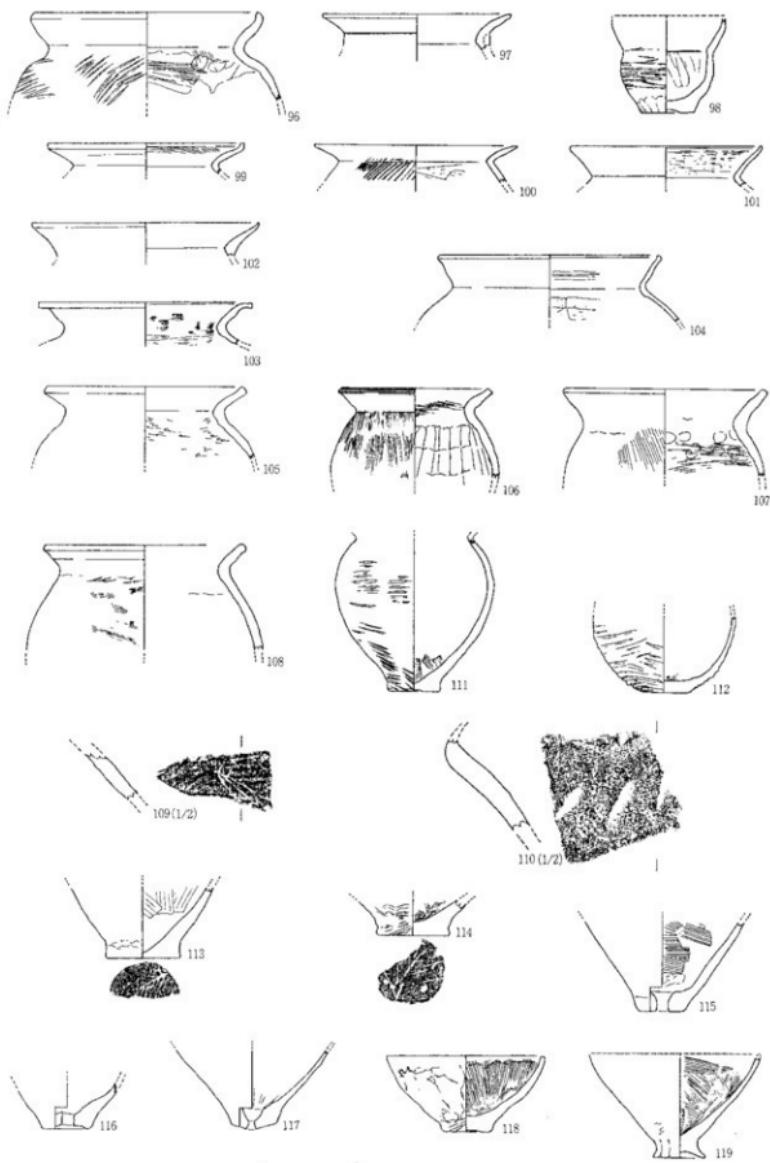
第29図 NR-302出土遺物(2)



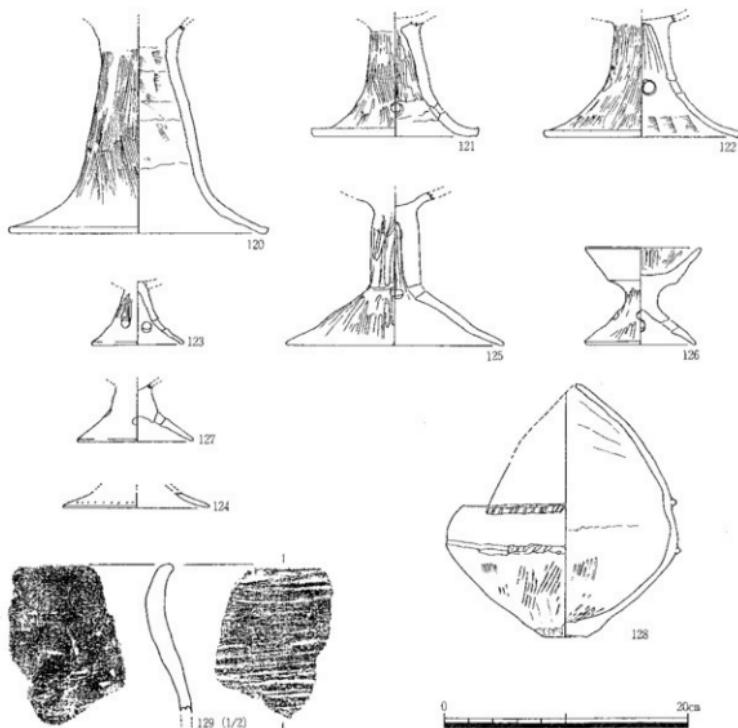
第30図 NR-302出土遺物（3）



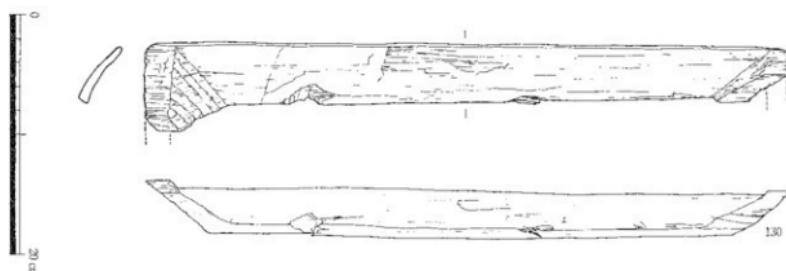
第31図 NR-302出土遺物(4)



第32図 NR-302出土遺物（5）



第33図 NR-302出土遺物（6）



第34図 NR-302出土遺物（7）

第5節 第4構造面

基本層序第VII層をベース面として自然河川を検出した。標高は約T. P. +5.1mを測る。

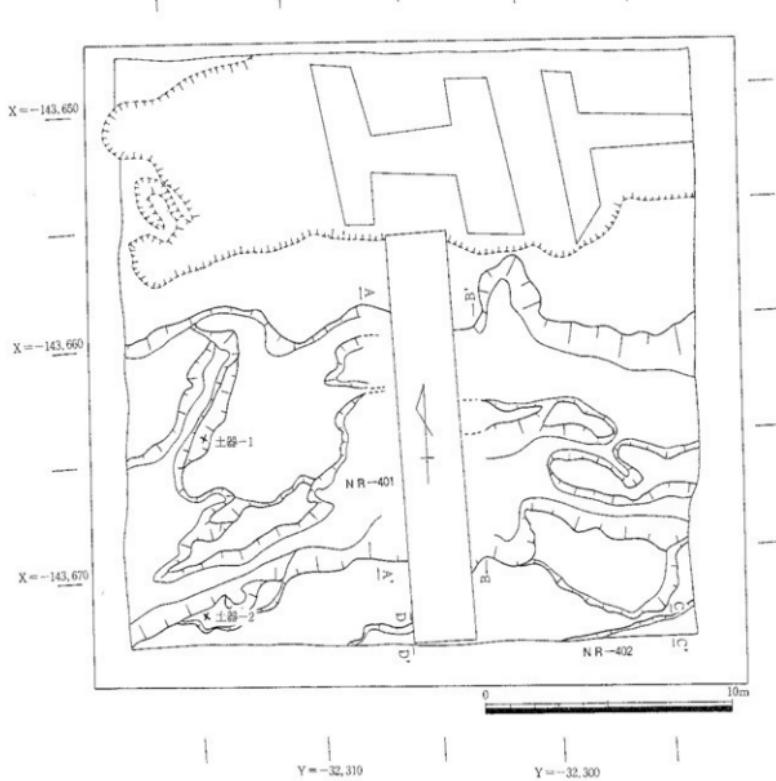
1. 自然河川

NR-401 (第36・37図)

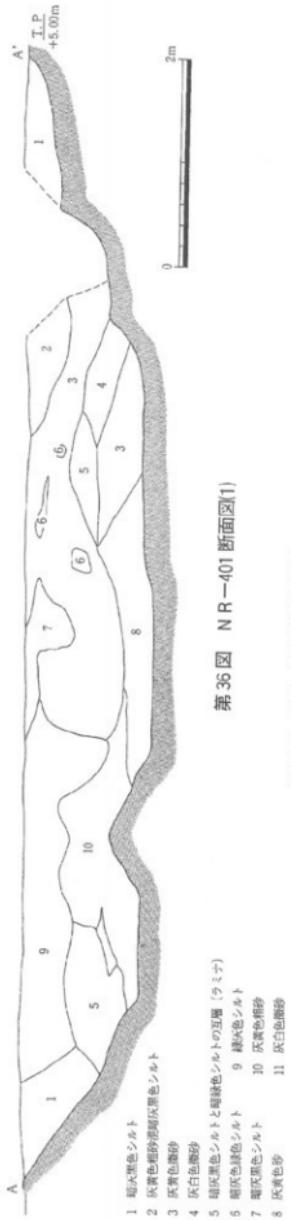
調査区南部で検出した、およそ東西に走る自然河川である。規模は最大幅約11.0m、深さは最深部で約1.6mを測る。埋土は煩雑な堆積状況を示しているが、暗灰緑～緑灰色シルト、灰白～灰黄色粗砂が主体をなす。遺物はまとまって出土しており、繩文土器、弥生前期～後期上器、古式土師器、サヌカイト剥片などがある。

NR-402

調査区南端部で検出した、およそ東西に走ると思われる自然河川である。肩部を僅かに検出したのみで規模は明らかでない。埋土は黄灰色粗砂である。遺物は出土していない。

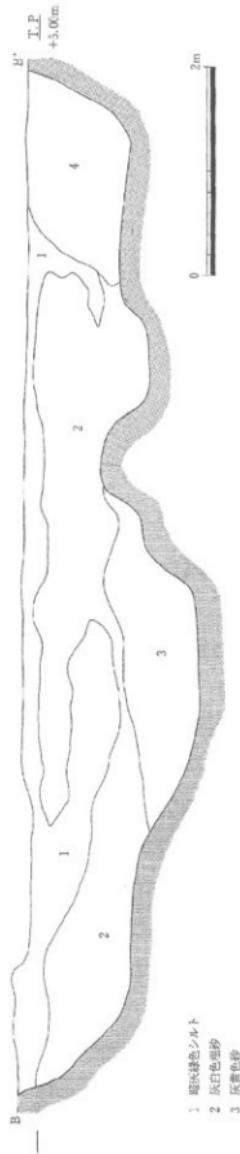


第35図 第4構造面全体図 ($S=1/200$)

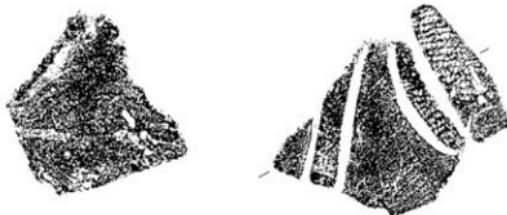


第36図 NR-401断面図(1)

第36図 NR-401断面図(1)



第37図 NR-401断面図(2)

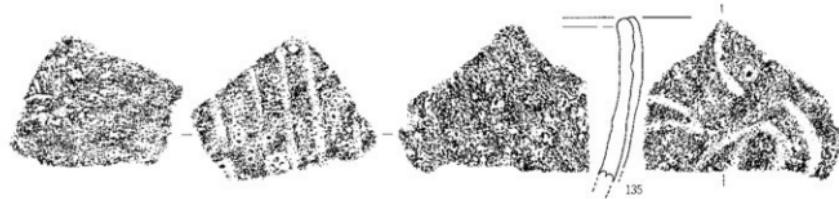


131



132

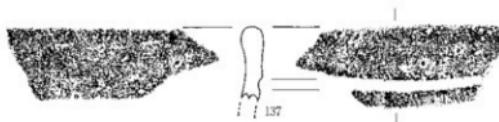
133



135

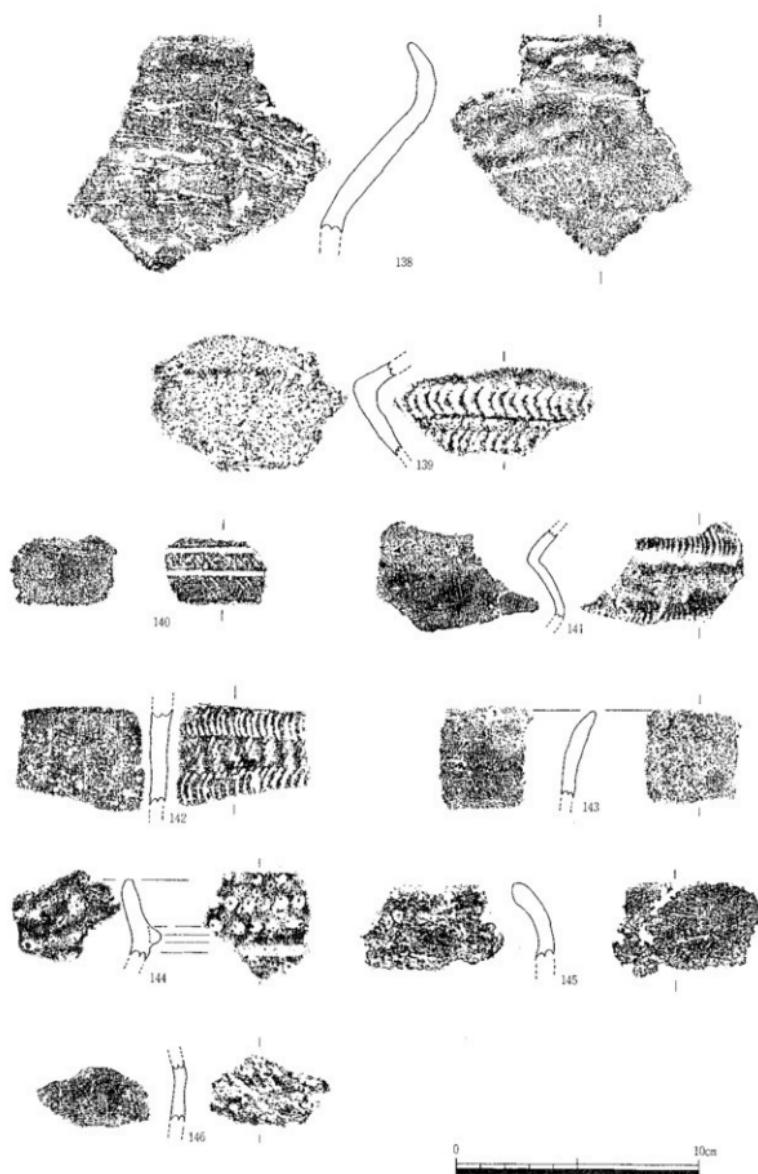
136

137

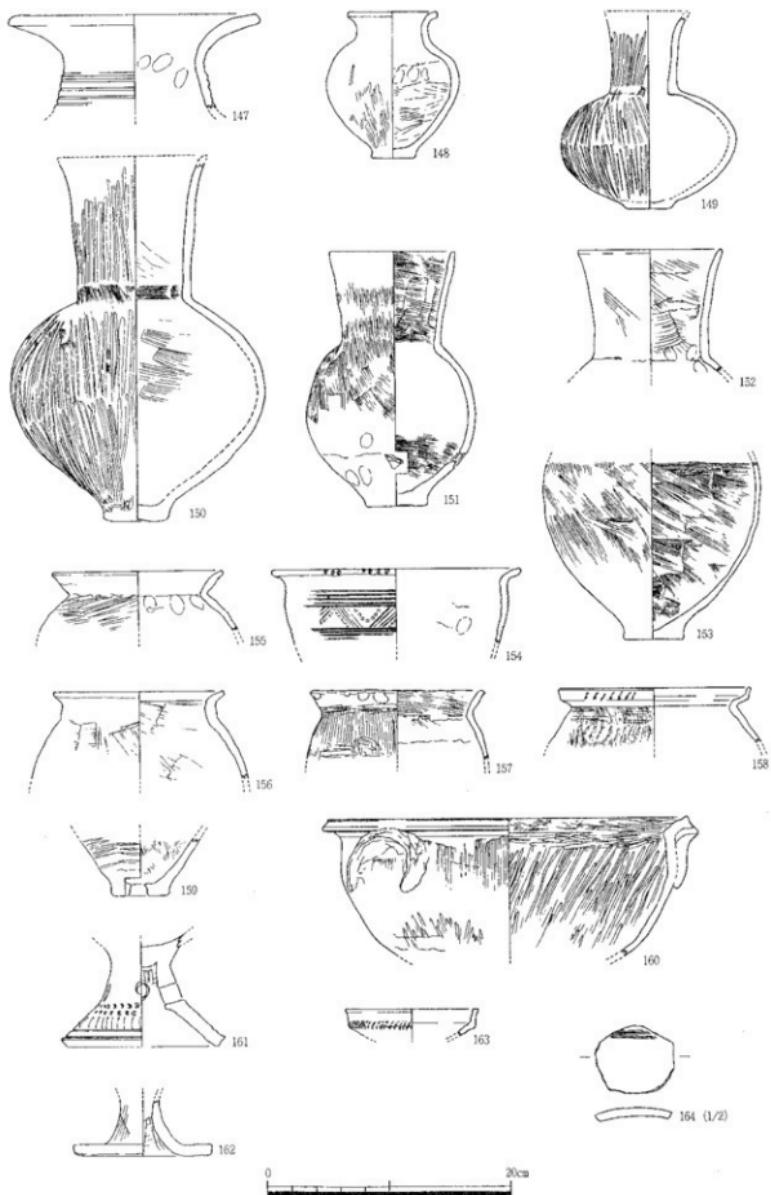


0 10cm

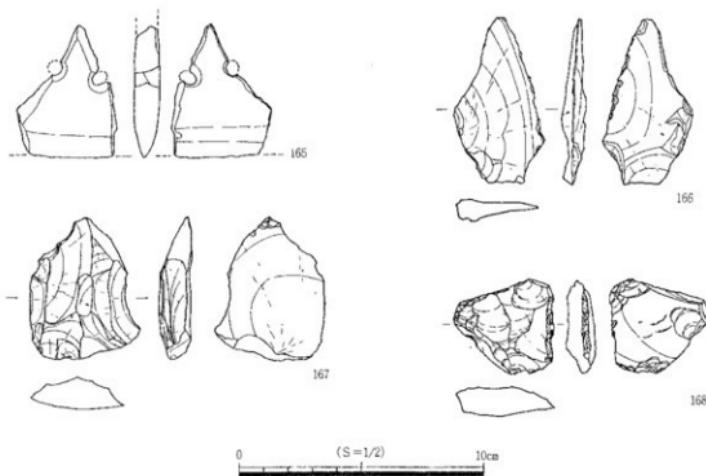
第38図 NR-401出土遺物(1)



第39図 NR-401出土遺物(2)



第40図 NR-401出土遺物（3）



第41図 NR-401 出土遺物(4)

第5章　まとめ

今回の調査成果では新たな知見も得ることができ、当遺跡の実態の解明はもちろんのこと鍋田川流域において展開した歴史を解明する上でも貴重な成果を得ることができた。以下、各時代の調査成果について概括し、まとめとしたい。

〔縄文時代〕

遺構は検出されなかったが、鍋田川の旧河川と考えられる弥生時代後期の自然河川跡（NR-301、302、401）から前～晚期の土器片、特に中～後期の土器片を中心に比較的まとまって出土している。

周辺の出土状況について見ると、当遺跡においては北に約150mの地点で遺構の可能性がある落込みの部分から中期末（北白川C式）の土器片が出土している⁽¹⁾ほか、弥生前～中期の集落跡にあたる南西に約200mの地点では晚期（長原式）の土器片が出土している⁽²⁾。また東接する元粉遺跡では後～晚期の土器片が出土しており、さらに東に位置する鍋田川遺跡では早期末～前期の可能性のある土器片、後～晚期の土器片などが出土している⁽³⁾。

以上の土器片にはあまり磨耗を受けていないものが多数見られることから、付近一帯において集落の存在は十分想定でき、その中でも特に生駒山麓から傾斜変換して低位段丘、扇状地が形成されている地域に位置する鍋田川遺跡、元粉遺跡がその中心地であった可能性が高いものと思われる。ちなみに両遺跡に北接する寺川遺跡においては出土がみられないこともこれを見証するものであろう。

また、特筆すべきものとして隱岐島産と推定され、二次加工が施されている黒曜石の石器剥片が出土している。所属時期については本来の剥離痕の状態から旧石器を二次加工した可能性も指摘されている⁽⁴⁾ことから明確にはし難いものである。ただ旧石器、縄文時代双方の可能性を視野に入れたとしても当該地域で出土することはたいへん稀なことであり、その生産および流通などについては十分議論される状況に至っていない。今後の類例の増加に期待し、その評価については今後の課題としたい。

〔弥生時代〕

先述している自然河川跡（NR-301、302、401）が検出されている。

NR-301、302は古墳時代初頭（庄内期）に埋没したと思われる自然河川で、前～中期の土器片は散見される程度で後期の土器が完形品を含めかなりまとまって出土している状況である。またNR-401についても出土遺物については同じ様相を示すが、層位的にみて時期的に遅るものであり後期の土器についても古い様相を示すものが若干目立つ状況にあった。

これらの遺物の出土状況により周辺において弥生時代後期集落の存在が想定されるものであるが、当遺跡においては土器韶まりの状態で一個体分の壺が出土している以外に際立った遺構、遺物の出土は見られない。そのような中に、検出した自然河川の上流域にあたる鍋田川遺跡においてまとめた出土を示す状況がある⁽⁵⁾ことから、やはり先述したような地形上に位置する鍋田川遺跡を中心に集落が展開したものと考えられる。

以上の状況は、弥生集落の中期から後期における集落変遷の様相が明確に窺えるものであり、今回の調査成果は弥生集落の動態を考えるうえでも重要な要素を提供するものであろう。

〔古墳時代〕

前期の水田跡、溝（SD-202、203）、後期の溝（SD-201）を検出した。

SD-202、203は規模、埋土、検出状況などから水田に伴う水路であったことが推測され、北側については水田が削平されたものと思われる。おそらく南に向かって傾斜する水田域を形成していたものであろう。

集落としては当遺跡内において西に約350mの地点で前期の集落跡が確認されており⁽⁹⁾、また東に約250m離れた鍋田川遺跡でも前～中期の集落の存在が想定されていることから、おそらく双方に伴う生産域であった可能性が高いものと思われる。

[近世以降]

耕作に伴う地割と推定される溝を検出した。少なくとも近世以降については当調査地の東側に集落が形成され、その周辺一帯は耕作地であった状況が考えられるものであるが、特に調査地周辺については既往の調査成果により古墳時代前期に水田が営まれて以降、現在に至るまで連綿と耕作地であった土地利用の状況が考えられるものである。

註

- (1) 報告書では土坑として報告されているが、検出状況から見て包含層の可能性も考慮したい。
大東市教育委員会 1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
- (2) 包含層から1点出土している。また報告書では船橋式とされているが、長原式に訂正したい。
大東市教育委員会 1990年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第7集
- (3) 大東市教育委員会 2004年 『元粉遺跡Ⅰ』大東市埋蔵文化財調査報告第19集
- (4) 大東市教育委員会 1991年 『寺川・鍋田川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第8集
大阪府教育委員会 1992年 『鍋田川遺跡発掘調査概要・I』
大阪府教育委員会 1994年 『鍋田川遺跡発掘調査概要・II』
- (5) 山添村教育委員会、田部剛士氏のご教示による。
- (6) 大東市教育委員会 1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
- (7) 1992、1998年大東市教育委員会調査。(未報告)
大阪府教育委員会 1992年 『鍋田川遺跡発掘調査概要・I』
大阪府教育委員会 1994年 『鍋田川遺跡発掘調査概要・II』
- (8) これらの様相については既に指摘されていることでもある。
浜田延充 2001年 「北河内地域における弥生時代遺跡群の動態」『市史紀要(第8号)』寝屋川市教育委員会
- (9) 1987年調査。(未報告)
- (10) 註(6)と同じ。
- (11) 大日本帝國陸地測量部、明治19年製版の地図(復刻版)による。
古地図史料出版株式会社 『明治二十年 二万分ノ一 大阪近傍図五面組』

附章 中垣内遺跡出土動物遺体について

大阪市立大学大学院医学研究科 安部みき子

大東市中垣内に位置する中垣内遺跡から出土した動物遺体は2点で、そのうちの1点は縄文時代から古墳時代前期の河川から出し、もう1点は中世から近世の包含層から出土している。

先史時代の河川から出土したものは、シカの角の緻密質を加工したものと思われ、長径約7cm、横径約3cmの扁平なそらまめ状をしている。この加工品の大きさから、比較的大きな角で、分枝する骨幹部の扁平な部分を使用したと思われる。

包含層から出土したウマの下顎臼歯は歯冠の一部が破損しているため部位の確定は困難である。歯冠は咬耗が見られるが歯根から歯冠まで65mmあり、比較的若い固体と思われる。

番号	試料番号	出土地点	時 期	動物種	出土部位	備 考
1	B161	NR-302	縄文～古墳時代初頭	シカ	角(左右不明)	加工痕
2	B011	第Ⅲ層	中世～近世	ウマ	右下顎第4小臼歯 or 第1第臼歯	

第1表 出土動物遺体一覧表

出 土 遺 物 一 覧 表

相 互 性	部 種	出土地點	法量 (cm)	色 調	焼 成	施 土	技 術の特徴	備 考
1	青 銅 鏡	福井県 第四層	口径(復) 器高(復)	13.6 2.9	外)オリーブ灰 内)オリーブ灰 施)灰白	堅緻	密	外面: 同軸ナゲ、施釉 内面: 回転ナゲ、施釉
2	陶 器	福井県 第四層	口径(復) 器高(復)	14.0 2.9	外)にぶい黄 内)黄褐色 施)にぶい黄	堅緻	密	外面: 回転ナゲ、施釉 内面: 回転ナゲ、施釉
3	陶 器	福 岡 県 第三層	底径 器高(復)	4.7 3.1	外)灰白 (内)明オーバープ 施)銀	堅緻	密	外面: 回転ナゲ 内面: 回転ナゲ、施釉
4	瓦 小 窓	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高	6.6 2.9	外)灰白 (内)灰白 施)灰白	堅緻	密	外面: 回転ナゲ 内面: 回転ナゲ
5	灰 釉 陶 器	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高(復)	14.7 2.7	外)緑(有) 内)緑(有) 施)灰白	堅緻	密	外面: 回転ナゲ 内面: 回転ナゲ
6	土 師 器 小型丸皿	福 岡 県 第三層	口径 器高	8.5 8.0	外)海緑黄色 内)海緑 施)海緑	良好	密	外面: ナゲ、接合痕 内面: ナゲ、指印痕、接合痕
7	土 師 器 小型器	福 岡 県 第三層	口径 器高(復)	10.2 3.7	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)灰	良好	やや粗	外面: ハラミガキ 内面: 摩滅のため調整不明
8	弦 生 土 器 甕	福 岡 県 第三層	口径 器高(復)	13.5 14.8	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)灰黃色	良好	やや粗	外面: タタキメ 内面: ナゲ、板ナゲ
9	弦 生 土 器 甕	福 岡 県 第三層	口径 器高(復)	14.2 4.8	外)にぶい黄 内)にぶい黄 施)黒色	良好	密	外面: ハケメ 内面: ナゲ、接合痕
10	弦 生 土 器	福 岡 県 第三層	底径 器高(復)	5.2 6.0	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色	良好	密	外面: ハラミガキ、接合痕 内面: ナゲ、ハラミガキ
11	弦 生 土 器 杯	福 岡 県 第三層	底径 器高(復)	9.8 4.7	外)灰褐色 内)灰褐色 施)灰褐色	良好	密	外面: ハラミガキ、3条と12条の沈溝 内面: ナゲ
12	弦 生 土 器 杯	福 岡 県 第三層	底径(復) 器高(復)	10.8 4.7	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)灰黃色	やや不良	やや粗	外面: 摩滅のため調整不明 内面: 半接竹管文
13	弦 生 土 器 手形片	福 岡 県 第三層	幅(復) 器高(復)	8.9 6.5	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)灰黃	良好	密	外面: ハケメ 内面: ナゲ、ハケメ
14	弦 生 土 器 縦 縫	福 岡 県 第三層	最大径(復) 器高(復)	17.6 3.3	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)にぶい黄褐色	良好	密	外面: ナゲ、突部に刻み目 内面: ナゲ、ハケメ
15	弦 生 土 器 長 雞	福 岡 県 第三層	口径 器高(復)	11.4 1.9	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)にぶい黄褐色	良好	密	外面: ハケメ 内面: ハケメ、指圧痕、接合痕
16	弦 生 土 器	福 岡 県 第三層	底径 器高(復)	3.6 11.6	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)にぶい黄褐色	良好	密	外面: ナゲ、接合痕 内面: ハケメ
17	弦 生 土 器 甕	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高(復)	11.0 4.7	外)灰褐色 内)灰褐色 施)灰褐色	良好	密	外面: 断裂のため調整不明 内面: ハラミガキ
18	弦 生 土 器 甕	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高(復)	31.3 3.9	外)灰褐色 内)灰褐色 施)にぶい黄褐色	良好	やや粗	外面: ナゲ、口縁部に刻み目 内面: ナゲ
19	纏 文 土 器 側溝	福 岡 県 第三層	器高(復)	4.2 3.2	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)にぶい黄褐色	良好	粗	外面: ナゲ 内面: ナゲ 施)にぶい黄褐色
20	纏 文 土 器 側溝	福 岡 県 第三層	器高(復)	3.2 3.2	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)灰褐色	良好	粗	外面: ナゲ 内面: ナゲ 口縁突部に刻み目
21	弦 生 土 器 甕	福 岡 県 第三層	器高(復)	1.4 1.4	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 施)にぶい黄褐色	良好	やや粗	外面: 摩滅のため調整不明 内面: 摩滅のため調整不明
22	弦 生 土 器 長 甕	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高(復)	14.6 16.2	外)灰褐色 内)灰褐色 施)灰褐色	良好	密	外面: ハケメ 内面: ハケメ、指圧痕、接合痕
23	弦 生 土 器 甕	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高(復)	16.0 9.7	外)灰褐色 内)灰褐色 施)灰褐色	良好	密	外面: タタキメ 内面: ナゲ、接合痕
24	土 師 器 甕	福 岡 県 第三層	直径 器高(復)	8.8 4.4	外)灰褐色 内)にぶい黄褐色 施)灰褐色	良好	粗緻	外面: ナゲ 内面: ナゲ
25	黑色 土 器 甕	福 岡 県 第三層	口径(復) 器高(復)	15.4 5.6	外)灰褐色 内)黒 施)灰褐色	良好	粗緻	外面: ヨコ、斜め方向のハラミガキ 内面: ヨコ方向のハラミガキ 口縁部に接合痕
26	須 作 器 甕	福 岡 県 SD-201	口径(復) 器高(復)	15.5 3.7	外)暗青褐色 内)青褐色 施)暗青褐色	堅緻	密	外面: ハラミガキ 内面: ハラミガキ
27	須 作 器 甕	福 岡 県 SD-201	口径(復) 器高(復)	16.6 3.9	外)青褐色 内)青褐色 施)灰白	堅緻	密	外面: 回転ナゲ 内面: 回転ナゲ

番号	種類	出土地点	直径(cm)	色調	焼成	胎土	柱法の特徴		備考
							外面	内面	
28	二重口縁壺	水田面	口径(復) 器高(復)	15.9 4.3	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	
29	土 師 器	水田面	口径(復) 器高(復)	15.5 5.0	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:タタキメ(5条/cm) 内面:ハケメ(6条/cm), ヘラケメリ	
30	土 師 器	水田面	口径(復) 器高(復)	15.8 6.8	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ハケメ 内面:ヘラケメリ, 指圧痕	
31	土 師 器 小型器台	水田面	最大径(復) 基部径(復) 器高(復)	6.6 2.7 4.1	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ナデ・ヘラナデ 内面:ナデ	円孔(推定)
32	土 師 器 杯	水田面	底径(復) 亞高(復)	6.3 2.2	外)に赤い 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	外面に一部黒斑あり 内面に鉛分付着?
33	弥生土器 壺	SD-301	口径(復) 器高(復)	16.0 6.2	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:タタキメ, 指圧痕 内面:押さえ, 緩合痕	外面に煤付着
34	弥生土器 鉢	SD-301	口径(復) 器高(復)	26.6 6.3	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	
35	弥生土器 壺	NR-301(B-3)	口径(復) 器高(復)	13.8 8.8	外)灰 内)灰 断)灰	良好	やや粗	外面:ハケメ 内面:ナデ, ハケメ	
36	弥生土器 壺	NR-301	口径(復) 器高(復)	16.0 12.0	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ハケメ, ヘラミガキ 内面:ハケメ	
37	弥生土器	NR-301(C)	底径 器高(復)	4.4 10.0	外)灰 内)に赤い 断)灰	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ハケメ, 接合痕	体部下半に穿孔
38	弥生土器 壺	NR-301	口径(復) 器高(復)	15.4 6.6	外)暗灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:タタキメ, 指圧痕 内面:ナデ, 接合痕	外面に煤付着
39	弥生土器 壺	NR-301	口径(復) 器高(復)	14.8 6.4	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:タタキメ, 接合痕 内面:板ナデ, 指圧痕	
40	土 師 器 鉢	NR-301(C-2)	口径(復) 器高(復)	32.2 16.1	外)に赤い 内)に赤い 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	
41	弥生土器	NR-301	底径 器高(復)	3.9 2.8	外)灰 内)に赤い 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:板ナデ	底部に穿孔
42	弥生土器 壺	NR-301	口径(復) 器高(復)	18.0 5.0	外)灰 内)に赤い 断)灰	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	
43	弥生土器 壺	NR-301	底径(復) 器高(復)	4.3 6.0	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	
44	弥生土器 杯	NR-301	底径 器高(復)	4.9 7.1	外)灰 内)灰 断)灰	良好	密	外面:板ナデ, 接合痕 内面:杯部にハケメ, 脚部にシボリ メ, 緩合痕	
45	石 石	NR-301	長さ(復) 幅(復) 厚さ(復)	21.0 5.3 5.0 786.5x				側面に擦痕あり	
46	満文土器	NR-302	器高(復)	10.3	外)灰 内)に赤い 断)灰	良好	やや粗	外面:沈線, 刺突文 内面:ナデ	北白川C式(量田式) 中期末
47	満文土器	NR-302	器高(復)	7.5	外)に赤い 内)に赤い 断)灰	良好	粗	外面:ナデ, 满文の後沈線 内面:ナデ	中期末
48	満文土器	NR-362	器高(復)	3.1	外)灰 内)に赤い 断)灰	良好	粗	外面:ナデ, 沈線 内面:ナデ	中津式?
49	満文土器	NR-362	器高(復)	3.2	外)に赤い 内)に赤い 断)灰	良好	粗	外面:ナデ, 沈線 内面:ナデ	中津式? 後期初期
50	満文土器	NR-302	器高(復)	3.8	外)に赤い 内)に赤い 断)灰	良好	粗	外面:櫛の強い満文, 沈線 内面:ナデ	北白川C式 中期末
51	満文土器	NR-302	器高(復)	5.8	外)に赤い 内)に赤い 断)灰	良好	粗	外面:回文? 内面:ナデ	
52	満文土器	NR-302	器高(復)	6.2	外)灰 内)灰 断)灰	良好	やや粗	外面:クシ状工具による刺突文 内面:満文	中期初頭?
53	満文土器	NR-302	器高(復)	5.9	外)灰 内)に赤い 断)灰	良好	やや粗	外面:調整不明, 口縁部に押し引きの 刺突文 内面:ナデ	
54	満文土器	NR-302	器高(復)	4.8	外)に赤い 内)に赤い 断)灰	良好	粗	外面:ナデ, 贴付端部に刻み目 内面:ナデ	堀保式(東海地方) 一乗寺式~元住吉山I式併行 後期中葉
55	満文土器	NR-302	器高(復)	5.3	外)灰 内)灰 断)灰	良好	やや粗	外面:口縁部に刻み目 内面:麻減のため調整不明	長原式

番号 器種	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴		備考
							外表面	内面	
56 織文土器	NR-302	器高(残)	5.2	外にぶい黄褐 断面灰青	良好	やや粗	外面: 条章 内面: 麻渦のため輪郭不明		
57 織文土器	NR-302	器高(残)	2.6	外にぶい黄褐 断面黄灰	良好	粗	外面: 織文、沈窓 内面: ナデ		
58 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	16.2 2.2	外にぶい黄褐 断面黄灰	良好	粗	外面: 條線 内面: 麻渦のため輪郭不明		
59 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	18.4 7.0	外にぶい黄褐 断面黄褐 断面灰白	良好	密	外面: ナデ、櫛目直跡文 内面: ナデ		
60 弦生土器 蓋	NR-302(A-1)	口径(復) 器高	12.7 22.4	外に灰オリーブ 内に灰褐色 断面灰黑色	良好	密	外面: ハラミガキ 内面: ハケメ、指圧痕、接合痕		
61 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	17.8 9.2	外に灰褐色 内に灰褐色 断面灰褐色	良好	密	外面: ナデ 内面: ハケメ 口縁部断面に沈窓		
62 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	16.6 4.6	外に淡黄 内に淡黄 断面黄	良好	やや粗	外面: ナデ 内面: ハケメ		
63 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	16.2 2.6	外に灰黄 内に灰黄 断面灰黄	良好	密	外面: ナデ 内面: ナデ		
64 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	14.0 15.2	外に灰黄 内に灰黄 断面灰褐色	良好	密	外面: ハケメ、体部下半はほとんど磨耗 内面: ハラナデ	体部に穿孔	
65 弦生土器 蓋	NR-302(C-5)	口径 器高	12.3 22.4	外にぶい黄 内にぶい黄色 断面灰褐色	良好	密	外面: ナデ 内面: ハケメ、接合痕	体部外面上半にヘラ記号 体部に穿孔	
66 弦生土器 蓋	NR-302(B-13)	口径(復) 器高(残)	13.8 22.2	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面灰黑色	やや不良	密	外面: ハラナデ、ハラミガキ 内面: ナデ、ハケメ、指圧痕、接合痕	体部に穿孔	
67 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	12.8 5.2	外にぶい黄 内にぶい黄 断面灰	良好	やや粗	外面: ナデ 内面: ナデ		
68 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	11.4 4.3	外に黄 内に黄 断面灰	良好	密	外面: ナデ 内面: ナデ 口縁部に沈窓		
69 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	12.4 4.5	外にぶい橙 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄	良好	密	外面: ヘラミガキ、接合痕 内面: ヘラミガキ 口縁部に沈窓		
70 弦生土器 蓋	NR-302	口径 器高(残)	12.1 4.2	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄灰色	良好	密	外面: ヘラミガキ、接合痕 内面: ヘラミガキ 口縁部に沈窓	口縁部内面に鉄分らしきもの付着	
71 弦生土器 蓋	NR-302	口径 器高(残)	11.3 8.2	外にぶい黄 内に灰黄 断面灰黄色	良好	密	外面: ヘラミガキ 内面: ヘラミガキ、指圧痕、接合痕	体部外面上半に煤付着 口縁部に鉄分付着	
72 弦生土器 長颈蓋	NR-302(C-3)	口径 底径 器高	11.2 4.6 21.0	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面灰黄色	良好	密	外面: ヘラミガキ、ヘラナデ、竹署文、接合痕 内面: ナデ、板ナデ		
73 弦生土器 長颈蓋	NR-302	口径 器高	8.4 7.0	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ 内面: ナデ		
74 弦生土器 長颈蓋	NR-302	口径 器高	7.6 13.7	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄褐色	良好	密	外面: 板ナデ、接合痕 内面: ナデ、指圧痕、接合痕		
75 二重口縁蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	21.6 3.8	外にぶい黄 内に灰黄 断面灰	良好	密	外面: ナデ、刻み目 内面: ナデ		
76 二重口縁蓋	NR-302	口径 器高(残)	15.7 6.1	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄褐色	良好	やや粗	外面: ヘラミガキ、接合痕 内面: ヘラミガキ、指圧痕、接合痕	口縁部外面に鉄分付着	
77 二重口縁蓋	NR-302	口径 器高	16.6 7.3	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄褐色	良好	やや粗	外面: ナデ、波状文 内面: ヘラミガキ		
78 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	19.0 1.9	外に灰褐色 内に灰褐色 断面灰褐色	良	密	外面: ヨコナデ 内面: ヨコナデ		
79 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	31.5 2.0	外に灰黄 内に灰黄 断面灰黄	良	密	外面: 波線文 内面: ヨコナデ 口縁部に刺突文あり		
80 弦生土器 蓋	NR-302	口径 器高(残)	3.2	外にぶい椎 内に灰灰褐色 断面灰褐色	良	密	外面: ナデ、削突文、波状文 内面: ナデ、指圧痕		
81 弦生土器 蓋	NR-302	器高(残)	7.0	外にぶい黄褐色 内に灰褐色 断面灰褐色	良	密	外面: ヘラミガキ、削削 内面: ナデ、指圧痕	外面に煤付着	
82 土器 小型丸底蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	12.3 10.5	外にぶい黄 内にぶい黄褐色 断面灰褐色	やや不良	密	外面: ナデ、堆文状ヘラミガキ、ヘラケズリ 内面: ナデ、ヘラナデ、接合痕	底部外面に黒斑	
83 弦生土器 蓋	NR-302	厚 器高(残)	1.9 4.6	外にぶい黄褐色 内にぶい黄褐色 断面灰褐色	良好	密	外面: ナデ 内面: ナデ 突部に刻み目		
84 弦生土器 蓋	NR-302	口径(復) 器高(残)	29.6 3.7	外にぶい黄 内にぶい黄褐色 断面にぶい黄褐色	良好	密	外面: ハケメ 内面: ナデ、接合痕		

番号	器種	出土地点	法量(cm)	色調	焼成	胎土	特徴の特徴	備考
85	弥生土器 甕	NR-302(B-2)	口径(復) 器高(復)	44.1 24.9 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄灰色	良好	密	外面:タタキ目 内面:ハケ目、粗面目、接合痕	体部外面に煤付着 部に穿孔
86	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	16.4 7.5 外に 内に 断面黄灰色	やや不良	密	外面:タタキ目、接合痕 内面:ナデ、指圧痕、接合痕	
87	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	14.8 6.4 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄灰色	良好	密	外面:タタキ目 内面:板ナデ、粗面目、接合痕	
88	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	17.8 6.6 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄灰色	良好	密	外面:タタキ目、接合痕 内面:ナデ	
89	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	16.2 5.0 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄灰色	良好	密	外面:タタキ目 内面:ナデ、接合痕	
90	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.4 8.5 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄灰色	良好	密	外面:タタキ目 内面:ナデ、接合痕	外外面に煤付着
91	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	14.1 4.8 外に黄 内にぶい黄 断面暗灰	良好	密	外面:タタキ目 内面:ナデ、接合痕	
92	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	16.6 6.5 外にぶい黄 内に灰黄 断面黄	良好	密	外面:タタキ目 内面:ハケ目	
93	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.0 3.4 外に黒斑 内に黄 断面暗灰	良好	密	外面:タタキ目 内面:板ナデ	
94	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	12.8 9.5 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄灰色	やや不良	密	外面:タタキ目 内面:板ナデ、指圧痕、接合痕	
95	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	14.8 8.65 外にぶい黄 内にぶい黄 断面灰	良好	密	外面:タタキ目 内面:ハケ目、接合痕	外面に煤付着
96	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	18.4 7.0 外に黄 内に黄 断面黄	やや不良	密	外面:タタキ目 内面:板ナデ、粗面目、接合痕	外面全体に煤付着
97	弥生土器 甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.5 2.8 外にぶい黄 内にぶい黄 断面	良	やや粗	外面:ナデ 内面:ナデ、	外面に煤付着
98	弥生土器 甕	NR-302 ミナミ7號	口径(復) 底径 器高(復)	7.3 4.5 外にぶい黄 内に暗灰 断面灰	やや不良	密	外面:タタキ、ヘラナデ 内面:ナデ、ヘラナデ	底部外面はヘラで押されて成形
99	土師器	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.6 2.5 外に黄 内に黄 断面黄	良	密	外面:ヨコナデ、接合痕 内面:ハケ目、ヘラケズリ	外面に煤付着
100	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	8.7 3.1 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄	良	やや粗	外面:タタキ目 内面:ヘラケズリ	外面に煤付着
101	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.6 3.4 外に黄 内に暗灰 断面黄	良	やや粗	外面:磨滅のため調整不明 内面:ハケ目(磨滅のため観察困難)	
102	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.4 2.8 外に黄 内にぶい黄 断面黄	良	やや粗	外面:磨滅のため調整不明 内面:磨滅のため調整不明	
103	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	17.3 3.4 外に黄 内にぶい黄 断面黄	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケ目、ヘラケズリ	
104	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	18.0 5.5 外にぶい黄 内に黄 断面黄	やや不良	密	外面:ナデ 内面:ハケ目、ヘラケズリ	口縁部外面に煤付着
105	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	15.0 6.0 外に黄 内に黄 断面黄	良好	やや粗	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	
106	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	12.0 7.5 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄	良好	密	外面:ハケ目 内面:ハケ目、板ナデ、接合痕 口縁部に22条の沈線	外面に煤付着
107	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	16.2 7.1 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄	やや不良	密	外面:ハケ目 内面:ハケ目、指圧痕、接合痕	外外面に煤付着
108	土師甕	NR-302	口径(復) 器高(復)	16.0 5.7 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄	良	やや粗	外面:ハケ目 内面:磨滅のため調整不明、接合痕	外面に煤付着
109	土器片	NR-302(C-2)	幅(復) 器高(復)	5.0 2.4 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄	良	密	外面:ナデ 内面:ナデ、指圧痕	外面に繊剤(繪画?)
110	土師器	NR-302	幅(復)	4.5 内に黄 断面黄	良	やや粗	外面:ナデ 内面:ナデ	外面にハケ状工具による剥離文
111	弥生土器 甕	NR-302	底径 器高(復)	4.2 12.5 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黑	やや不良	密	外面:タタキ目 内面:ハケ目	体部外面に煤付着
112	弥生土器 甕	NR-302	底径 器高(復)	4.2 6.2 外にぶい黄 内にぶい黄 断面黄	良好	密	外面:タタキ目 内面:ナデ、ヘラナデ	底部外面に黒斑 底部内面に煤付着
113	弥生土器 甕	NR-302	底径(復) 器高(復)	6.0 5.9 外に黄 内に黄 断面黄	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケナデ	底部外面に木の葉痕

番号	器種	出土地点	重量(g)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
114	弥生土器 NR-302	底径(復) 器高(残)	6.0 2.8	外:褐灰 内:灰白 断:灰白	良好	密	外面:タタキ目 内面:ハケ目	底部外面に本の葉痕 底部内面に黒斑
115	弥生土器 NR-302	底径 器高(残)	4.3 7.2	外:に赤い黄褐色 内:明褐色 断:に赤い黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケ目	底部に穿孔
116	弥生土器 NR-302	底径 器高(残)	3.7 3.8	外:黄褐色 内:黄褐色 断:灰白	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	底部に穿孔
117	弥生土器 NR-302	底径 器高(残)	3.8 6.5	外:灰白 内:浅黄褐色 断:灰白	良好	密	外面:ナデ、接合痕 内面:ナデ	底部外面、側面に黒斑 底部に穿孔
118	弥生土器 杯 NR-302(C-4)	口径 器高	12.1 6.2	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:灰白	良好	密	外面:ナデ、接合痕 内面:ハケ目	外面に黒斑 内面に灰分付着
119	弥生土器 鉢 NR-302	底径 器高(残)	4.3 8.4	外:に赤い黄褐色 内:黄褐色 断:灰白	やや不良	密	外面:ナデ、ヘラナデ 内面:ハケ目	
120	弥生土器 鉢 NR-302(C-1)	底径 器高(残)	10.5 15.3	外:褐 内:灰 断:灰白	良好	密	外面:ヘラミガキ、ハケ目 内面:ハケ目、接合痕	
121	弥生土器 高杯 NR-302	底径 器高(残)	6.9 9.4	外:灰黄 内:に赤い黄褐色 断:灰	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:しばりめ、接合痕	円形透かし孔4ヶ所
122	弥生土器 杯 NR-302	底径 器高(残)	9.8 7.9	外:灰黄 内:灰 断:灰	良好	密	外面:ハケ目 内面:ハケ目、接合痕	円形透かし孔3ヶ所
123	弥生土器 杯 NR-302	底径 器高	7.6 5.1	外:に赤い黄褐色 内:灰 断:に赤い黄褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	円形透かし孔3ヶ所
124	弥生土器 杯 NR-302	底径(復) 器高(残)	12.0 1.4	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:に赤い黄褐色	良	密	外面:ナデ、刺突文 内面:ナデ	
125	弥生土器 杯 NR-302	底径 器高	17.8 11.2	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:灰	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ、しばりめ	円形透かし孔4ヶ所
126	土器 小型器台 NR-302	口径 器高	8.8 7.9	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:に赤い黄褐色	良好	やや粗	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	円形透かし孔4ヶ所
127	土器 器台 NR-302	底径 器高(残)	9.4 4.8	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:灰	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	円形透かし孔4ヶ所
128	弥生土器 手筋形土器 NR-302(B-2)	全体径 底径 器高	19.1 3.6 29.8	外:淡黄 内:に赤い黄褐色 断:浅黄褐色	良好	密	外面:ナデ、タタキ目、ヘラケ目 内面:ナデ、ヘラミガキ、接合痕 裏部に捺印有	非常に粗陋なつくり 内面に墨付着
129	縄文土器 ? NR-302	器高(残)	6.1	外:灰 内:灰 断:灰黄	良	密	外面:条痕?	
130	槽 NR-302	長さ(残) 幅(残) 厚さ	107 7.5 1.5~2.0					コウヤマキ
131	縄文土器 NR-401	器高(残)	6.5	外:灰黄 内:内灰 断:灰黄	良	密	外面:ナデ、沈殿 内面:ナデ 口縁部に縄文	北白川C式
132	縄文土器 NR-401	器高(残)	4.5	外:灰黄 内:内灰 断:灰	良	粗	外面:筋が大きく彫りが強い縄文 内面:ナデ	中期
133	縄文土器 NR-401	器高(残)	3.4	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:灰	良	粗	外面:縄文、隆起 内面:縄文	船元 I または船元 II
134	縄文土器 NR-401	器高(残)	5.6	外:灰 内:に赤い黄褐色 断:灰	良	粗	外面:比喩 内面:ナデ	比喩文は磨耗のためかなりぼくなっている。中堀?
135	縄文土器 NR-401	器高(残)	6.8	外:灰黄褐色 内:内灰 断:灰	良	粗	外面:沈殿 内面:押捺後ナデ(不削離)	外面に墨付着
136	縄文土器 NR-401	器高(残)	9.0	外:に赤い黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:に赤い黄褐色	良	粗	外面:ナデ、刺突文 内面:摩擦のため調整不明	補修孔
137	縄文土器 NR-401	器高(残)	3.2	外:灰 内:灰 断:灰	良	粗	外面:ナデ、沈殿 内面:ナデ	宇津式
138	縄文土器 NR-401	器高(残)	7.3	外:灰黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:灰	良	粗	外面:条痕 内面:条痕、指圧痕	キャリバー型口縁 中期?
139	縄文土器 NR-401	器高(残)	3.9	外:に赤い黄褐色 内:浅黄褐色 断:灰	良	やや粗	外面:ナデ、瓜形文 内面:摩滅のため調整不明	船元 I 中期
140	縄文土器 NR-401	器高(残)	2.7	外:に赤い黄褐色 内:灰 断:灰	良	粗	外面:結節構文、沈殿 内面:ナデまたはヘラミガキ?	元住吉山 I 式
141	縄文土器 NR-401	器高(残)	3.7	外:灰 内:に赤い黄褐色 断:灰黄褐色	良	やや粗	外面:ナデ、瓜形文 内面:ナデ、ヘラミガキ?	内面に化物付着 船元 I 式 中期前半
142	縄文土器 NR-401	器高(残)	4.2	外:灰黄褐色 内:に赤い黄褐色 断:灰	良	やや粗	外面:縄文、瓜形文 内面:ナデ?	北白川下層式IIa~IIb

番号	器種	出土地点	汎量(cm)	色調	施成	胎土	技法の特徴	備考
143	縄文土器	NR-401	器高(残)	3.7 外:暗オリーブ褐 内:暗灰黄 黒地	良	粗	外面:ナデ(磨削のため不明瞭) 内面:ナデ(磨削のため不明瞭)	
144	縄文土器	NR-401	器高(残)	3.4 外:に赤い黄褐 内:黄褐 黒地	良	粗	外面:ナデ、竹葉文、突窓文・沈線文 内面:ナデ	北白川C式 中期末
145	縄文土器	NR-401	器高(残)	3.1 外:に赤い黄褐 内:灰黄褐 白地	良	粗	外面:ナデ 内面:ナデ	
146	縄文土器	NR-401	器高(残)	2.7 外:淡黄橙 内:に赤い黄褐 内:に赤い黄褐	良	粗	外面:織文 内面:ナデ	
147	弥生土器	NR-401	口径(復) 器高(残)	19.8 7.2 外:に赤い黄褐 内:に赤い黄褐 黒地	やや不良	密	外面:ナデ、《角のへら彫き沈線 内面:ナデ、指圧痕	
148	弥生土器	NR-401	口径 器高	7.2 11.8 外:に赤い黄褐 内:に赤い黒色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:板ナデ、指圧痕	
149	弥生土器	NR-401土器②	口径(復) 底径 器高(残)	5.8 3.6 15.7 外:に赤い黄褐 内:に赤い褐 内:に赤い褐灰色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	
150	弥生土器	NR-401土器③	口径(復) 器高(残)	12.2 29.7 外:に赤い黄 内:に赤い黄 内:に赤い黄 黒地	良好	密	外面:ヘラミガキ、ハケメ 内面:ナデ、ハケメ	口縁部から体部かけて黒斑
151	弥生土器	NR-401土器①	口径 器高(残)	10.2 21.1 外:灰黄 内:灰黄 内:灰黄	良好	密	外面:ハケメ、指圧痕 内面:ナデ、ハケメ	体部に穿孔
152	弥生土器	NR-401	口径 器高(残)	11.8 16.1 外:堆灰黄 内:堆灰黄 内:灰	良好	密	外面:強いナデ 内面:ハケメ、指圧痕、接合痕	
153	弥生土器	NR-401	底径 器高(残)	4.8 14.5 外:に赤い堆 内:に赤い黄 内:に赤い黄	やや不良	密	外面:ハケメ 内面:ハケメ	
154	弥生土器	NR-401	口径(復) 器高(残)	20.6 5.4 外:堆灰黄 内:堆灰黄 内:灰	良好	やや粗	外面:ナデ、刺突文、ヘラ彫き沈線 内面:ナデ、指圧痕、接合痕 口縁部にO型の刻み目	口縁部外面から体部上半外面 にかけて煤付着
155	弥生土器	NR-401	口径(復) 器高(残)	13.7 5.0 外:灰 内:灰黄褐 内:に赤い黄	良好	密	外面:タタキメ 内面:ナデ、指圧痕、接合痕	外面に煤付着
156	弥生土器	NR-401	口径(復) 器高(残)	13.8 7.2 外:灰黄褐 内:灰 内:灰	良好	密	外面:ハケメ 内面:ハケメ	外面に煤付着
157	弥生土器	NR-401	口径(復) 器高(残)	13.6 5.6 外:に赤い黄褐 内:に赤い黄	良好	密	外面:ハケメ、タタキメ、指圧痕 内面:ハケメ、ナデ、接合痕	外面に煤付着
158	弥生土器	NR-401	口径(復) 器高(残)	15.6 4.5 外:に赤い黄褐 内:堆灰黄 内:灰	良好	密	外面:ハケメ、板ナデ、口縁部と体部 に刺突文・点文 内面:ナデ	口縁部外面に煤付着 口縁部内面に鉛分らしきもの 付着
159	弥生土器	NR-401	底径 器高(残)	4.3 4.6 外:灰黄 内:灰黄 内:灰	良好	やや粗糙	外面:タタキメ 内面:ハケメ	底部に穿孔
160	土師取手付鉢	NR-401	口径(復) 器高(残)	29.8 11.4 外:灰黄 内:灰黄 内:灰	良好	密	外面:板ナデ、ヘラミガキ、接合痕 内面:ヘラミガキ 口縁部にヨコ方向のヘラケズリ	
161	弥生土器	NR-401	底径(復) 器高(残)	6.2 9.0 外:灰黄 内:灰黄 内:灰	良好	密	外面:ナデ、刺突文、刺突列点文 内面:ナデ、ヘラケズリ	円形透かし孔4ヶ所
162	弥生土器	NR-401	底径(復) 器高(残)	11.0 4.6 外:堆灰黄 内:灰 内:に赤い堆	良好	粗雑	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ、ヘラケズリ	
163	土師器	NR-401	口径(復) 器高(残)	10.8 2.3 外:堆灰黄 内:灰 内:堆灰	良好	密	外面:ナデ、刺突列点文 内面:ナデ	
164	土製円盤	NR-401	長さ 幅 厚	5.5 4.1 1.05 外:灰 内:灰 内:断	良好	密	周囲打ち欠き	弥生土器の転用
165	石庵丁	NR-401	長さ(残) 幅(残) 厚	5.5 4.1 1.05 重さ 20.6g				穿孔は両面より
166	石器剥片	NR-401	長さ 幅 厚	6.8 3.7 1.0 重さ 15.8g				サスカイト 石錐未製品?
167	石器剥片	NR-401	長さ 幅 厚	5.8 4.5 1.4 重さ 32.9g				サスカイト
168	石器剥片	NR-401	長さ 幅 厚	3.6 4.1 1.05 重さ 16.7g				馬鹿石(鹿島鳥居?) 二次加工あり 全体に縫が磨滅している、外 面上面を欠損するが剥片の主 要剥離面側と考えられる

図 版



1. 第1遺構面全景（南より）



2. 第2遺構面全景（西より）

図版
2
遺構
(2)



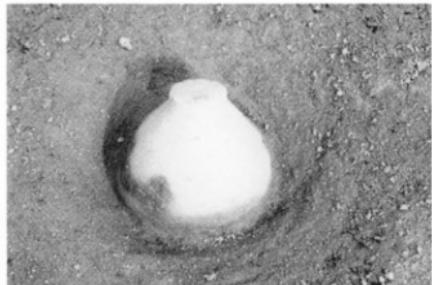
1. 第2遺構面南半部（北東より）



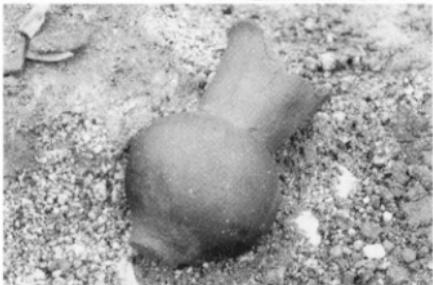
2. 第2遺構面水田跡（東より）



1. 第3遺構面全景（南より）



2. NR-301遺物出土状況 (C-1)



3. NR-302遺物出土状況① (C-3)



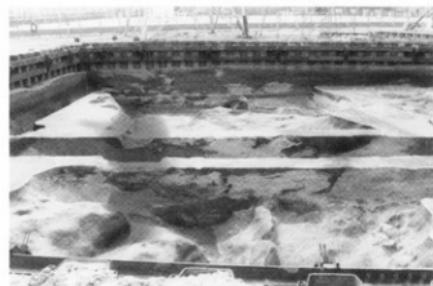
4. NR-302遺物出土状況② (B-2)



5. NR-302遺物出土状況③ (A-1)



1. NR-401(北より)



2. NR-401断面(東より)



3. NR-401遺物出土状況①(土器-1)

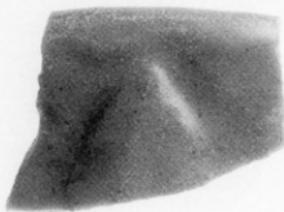


4. NR-401遺物出土状況②(土器-2)



5. NR-401遺物出土状況③(土器-3)

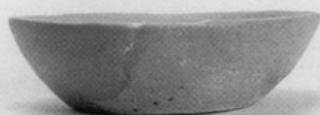
図版 5
出土遺物(1)



1



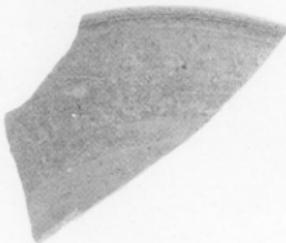
6



4



8



5



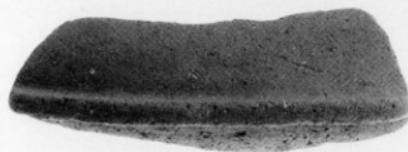
11



12



20



14



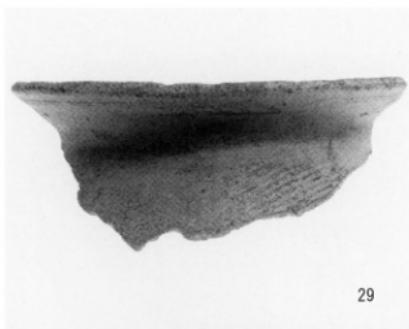
23



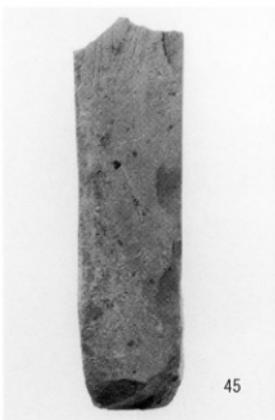
19



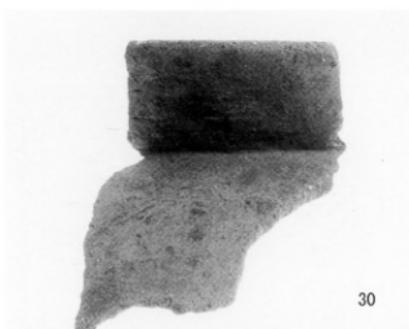
26



29



45



30



45'



35



46



47



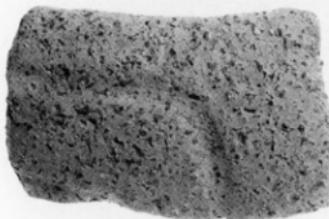
50



48



51



49

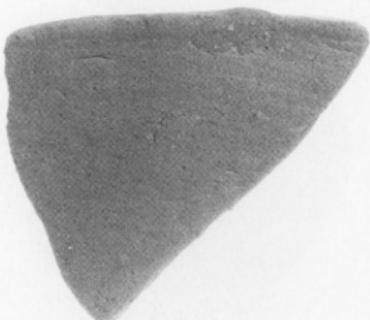


52

図版9
出土遺物(5)



52'



56



54



57



55



58



60



66



64



72



65



74

図版 11
出土遺物(7)



76



82



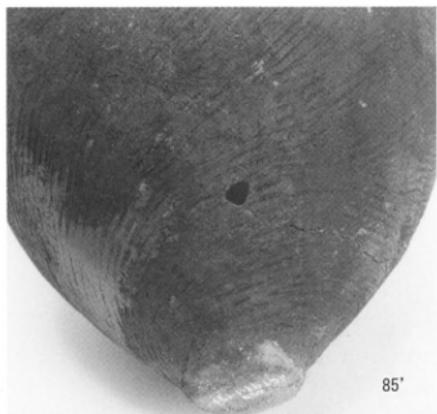
77



85



81



85*



98



114



109



118



110



119

図版
13
出土遺物(9)



122



126



124



128



125



128'



129



133



131



134

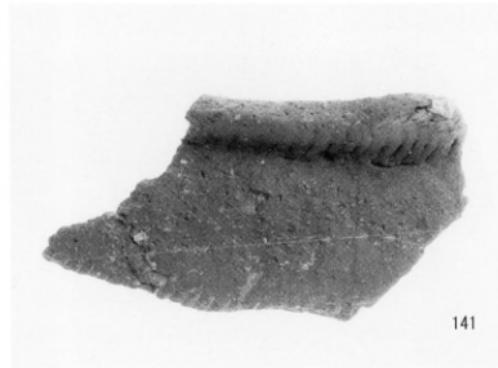
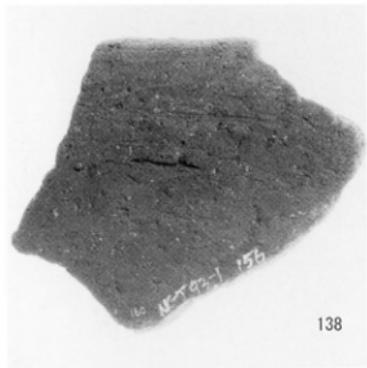
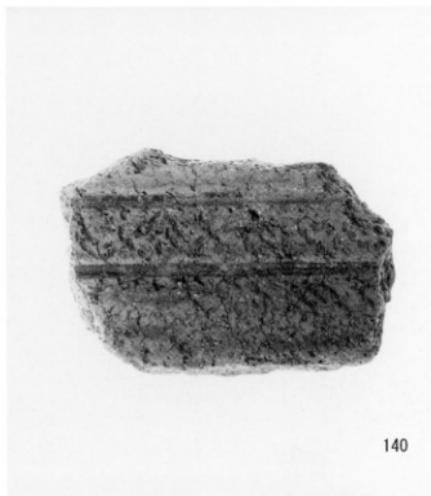
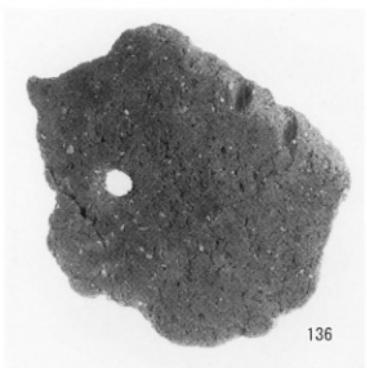


132



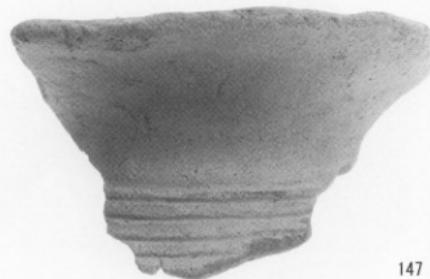
135

図版15
出土遺物
(11)





142



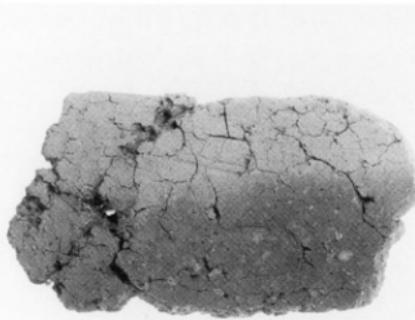
147



144



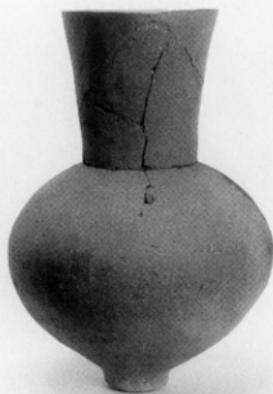
148



145



149



150



158



151



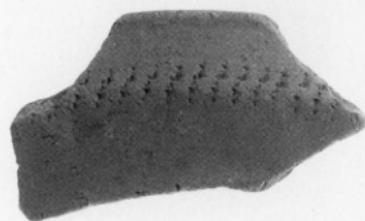
160



154



161



163



166



164



167



165



168



130



130'



B161



B011

報告書抄録

ふりがな	なかがいといせき						
書名	中垣内遺跡						
副書名	関西電力株式会社架空送電線鉄塔(No.23)建替えに伴う発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第21集						
編著者名	中達健一・安部みき子						
編集機関	大東市教育委員会						
所在地	〒574-8555 大阪府大東市谷川1-1-1 TEL 072-872-2181						
発行年月日	2004年(平成16年)3月31日						

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかがいといせき 中垣内遺跡	大阪府大東市 なかがいと 中垣内4丁目	27218	4	34° 42' 15"	135° 38' 50"	1993年2月16日 1993年4月19日	676m ²	架空送電線 鉄塔建替え

所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
なかがいといせき 中垣内遺跡	集落跡	縄文時代		前～晚期の土器	黒曜石剝片 (縄文時代?)
		弥生時代	後期を中心とした 自然河川	弥生後期土器 砥石、石包丁 サヌカイト剝片 木製品	
		古墳時代	溝 ピット 水田跡	土師器 須恵器	
		近世以降	溝	陶磁器 土師器	

印刷物番号
15-52

大東市埋蔵文化財調査報告第21集

中垣内遺跡

—関西電力株式会社架空送電鉄塔（No.23）建替えに伴う発掘調査報告書—

2004年3月31日発行

編集・発行 大東市教育委員会

〒574-8555 大東市谷川1丁目1番1号

TEL. 072-872-2181

自刷・製本 西村印刷株式会社

〒534-0021 大阪市都島区都島本通5丁目15番3号

TEL. 06-6925-6655

